

2025年保存版



松川町



防災ハザードマップ



地震

ため池

洪水・土砂災害

松川町防災ハザードマップ

●ご利用にあたって

松川町防災マップに掲載している3つの種類のハザードマップ情報は、自分の住む地域の巨大地震発生時の想定震度やため池・河川の決壊による浸水想定区域と浸水深及び土砂災害の警戒区域等を知っていただくとともに、災害発生時には円滑に避難を行っていただくことを目的に作成したものです。

目次

・松川町防災ハザードマップ 目次、地図の見方	P1
・南海トラフ地震想定震動階級地図	P2
・伊那谷断層帯地震想定震度階級地図	P3
・松川町防災重点ため池	P4
池の平堤・鍛冶屋端・日影堤・入倉堤・北原堤	P5～P6
・松川町全体図	P7
・地区別一覧表・凡例	P8
・地区別地図①～⑫	P9～P32
・大雨に関する気象情報・避難情報と警戒レベル	P33
・洪水について・災害に関する注意点	P34
・土砂災害	P35～P36
・地震について	P37～P38
・災害に関する情報の伝達経路・災害の「備え」チェックリスト	P39
・避難情報のポイント	P40
・マイ・タイムラインを作成しましょう!・わが家の備忘録	P41
・避難場所等一覧	P42

地図の見方

●地震ハザードマップの説明

長野県では大規模地震の発生に備えるため、平成27年3月に第3次地震被害想定調査結果を公表しました。

この防災マップには、松川町に最も影響が大きいと予想される「南海トラフ」・「伊那谷断層帯」の地震による最大震度予測を掲載しています。

●ため池ハザードマップの説明

松川町には、12ヶ所の農業用ため池があり、そのうち5ヶ所は決壊等により周辺に被害を及ぼすおそれがある「防災重点ため池」に指定されており、地震や大雨により決壊した場合の浸水区域が公表されています。

●洪水ハザードマップの説明

●天竜川浸水想定区域

国土交通省天竜川上流河川事務所が平成28年12月に天竜川の河道及び洪水調整施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模（1,000年に1度程度）の降雨に伴う洪水により天竜川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。支川の（決壊による）氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域においても浸水の発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。（指定の前提となる降雨：天竜川上流域の48時間総雨量605mm）

●県管理河川浸水想定区域

（片桐松川・間沢川・田沢川・寺沢川・大沢川・唐沢川・野岩川・福沢川・南沢川・保谷沢川）

長野県が令和4年9月及び令和5年3月、令和5年11月に河川の河道整備状況を勘案して、想定し得る最大規模（1,000年に1度程度）の降雨に伴う洪水により氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。支川の（決壊による）氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域においても浸水の発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。（指定の前提となる降雨：各河川流域の24時間総雨量836mm）

●土砂災害ハザードマップの説明

土砂災害警戒区域は、長野県が取りまとめたデータを基に掲載されています。一定の地理的条件や保全対象（人家や公共施設）を有する箇所について表示しているため、この地図に示した箇所以外でも土砂災害が発生することがあります。

松川町 防災ハザードマップ

令和7年3月作成

発行：松川町 総務課

長野県下伊那郡松川町元大島3823
TEL.0265-36-3111

地図編集 株式会社ゼンリン ©ZENRIN.CO.,LTD

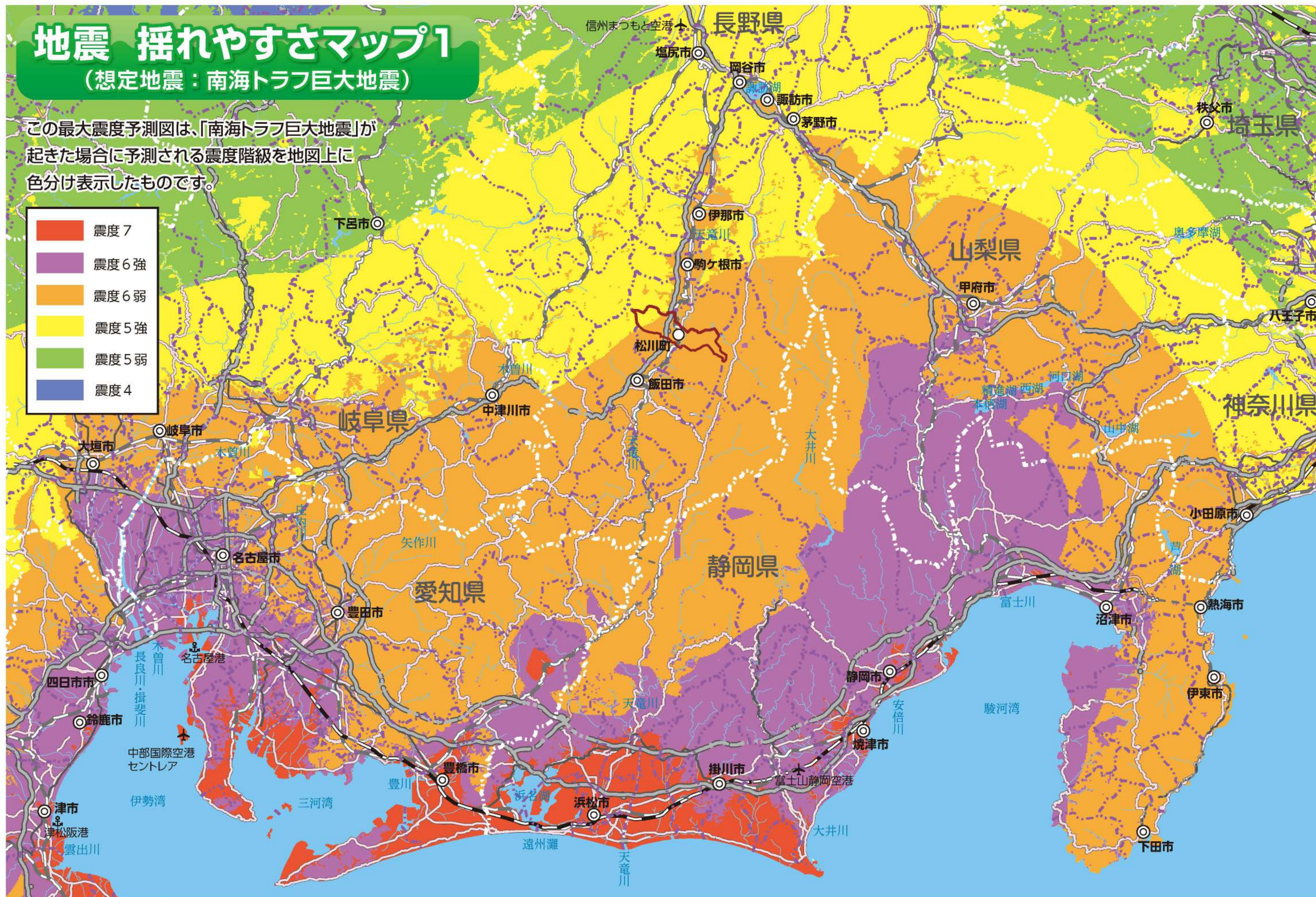
この地図は、災害発生時に円滑に避難いただくことを目的としており、警戒区域等の地図表示については、現況と異なる場合がありますので、参考情報としてご利用ください。

なお、宅地建物の取引に必要な重要事項の説明に使用する場合は、警戒区域等の地図の表示が現況と異なる場合がありますので、町役場にお問い合わせください。

地震 揺れやすさマップ1

(想定地震：南海トラフ巨大地震)

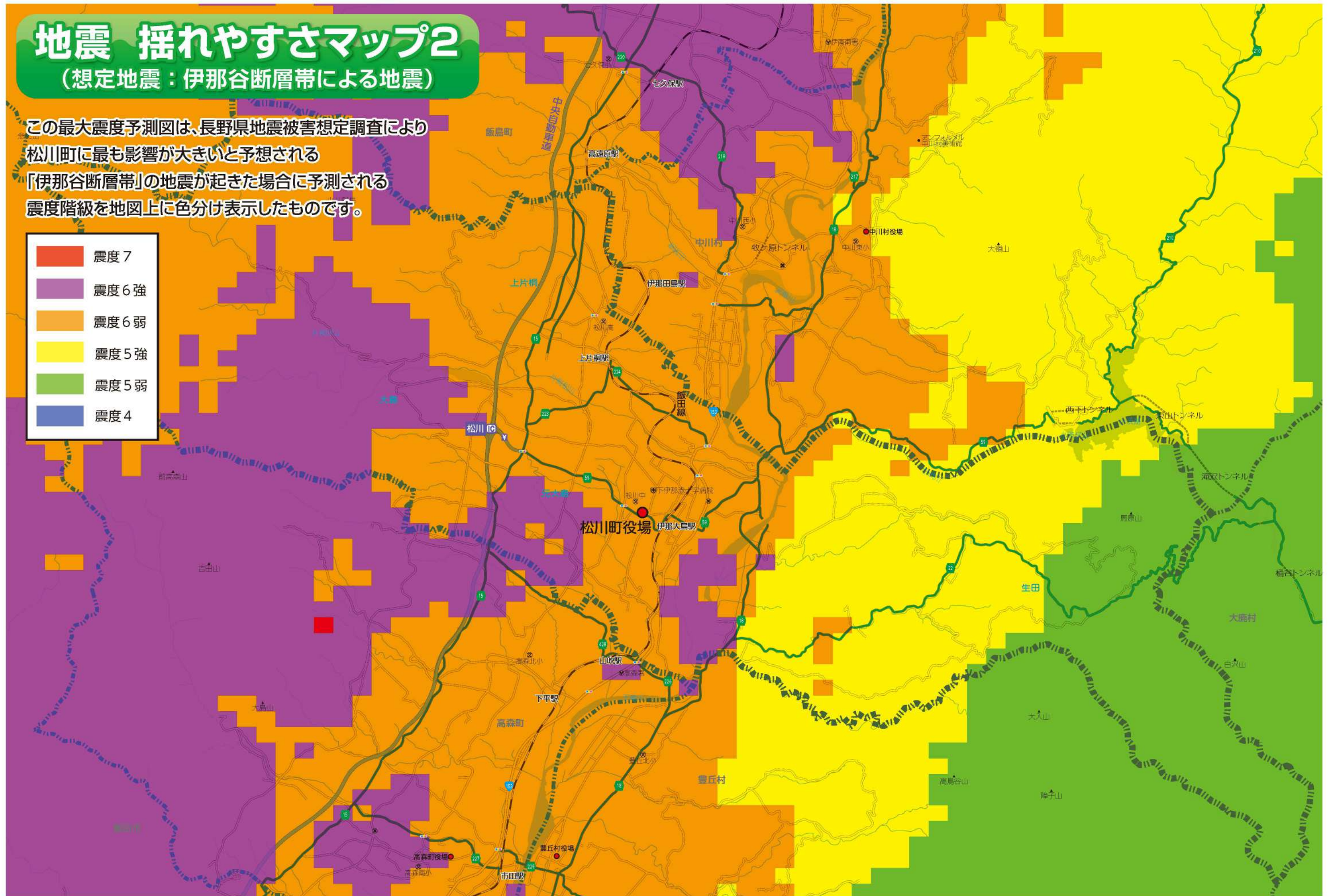
この最大震度予測図は、「南海トラフ巨大地震」が起きた場合に予測される震度階級を地図上に色分け表示したものです。



地震 揺れやすさマップ2

(想定地震：伊那谷断層帯による地震)

この最大震度予測図は、長野県地震被害想定調査により
松川町に最も影響が大きいと予想される
「伊那谷断層帯」の地震が起きた場合に予測される
震度階級を地図上に色分け表示したものです。



防災重点ため池 ハザードマップ

防災重点ため池とは

防災重点ため池とは、国が策定した基準により選定したもので、決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設が存在し、人的被害がおよぶ恐れがあるため池のことです。

町内には、防災重点ため池として5池 池の平堤（西山）・鍛冶屋端（部奈）・日影堤（部奈）・入倉堤（部奈）・北原堤（部奈）が指定されています。元々これらのため池は、農業用水を確保するために作られた人造湖であり、現在も水利組合等が維持管理を行っています。

しかし、近年の異常気象等により万が一ため池が決壊する可能性があることから、氾濫解析を実施し、ハザードマップを作成しました。

ため池ハザードマップとは

ため池の多くは老朽化が進行し、近年局地的な大雨や大規模な地震の発生などにより、決壊等を起因とした被害が発生しています。また、農村地域では都市化による混住化が進むとともに、過疎化・高齢化が進行し、ため池の適切な管理や緊急時の情報伝達が的確に実施されないことが懸念され、このため、ため池が決壊する恐れのある場合、または決壊した場合に迅速かつ安全に避難するための参考資料として活用していただくものです。

ため池ハザードマップの活用

日頃から災害発生時に関する情報を共有し、災害発生時には迅速かつ的確な避難行動を行うため、地域住民の日頃の防災・減災意識を高めるとともに、地域の防災計画の見直しや防災施設整備などの対策の検討にも活用します。

ため池が危険な場合

■大雨

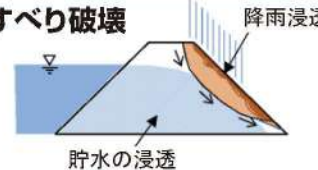
集中豪雨や長雨等により、水位が上昇し堤防に浸透する水の量が増えることで、決壊の危険性が高まります。さらに流木などにより、ため池の洪水吐がふさがれると、ため池は満水となり水があふれ出して堤防を浸食し、さらに決壊の危険性が高まります。

■地震

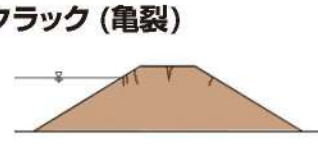
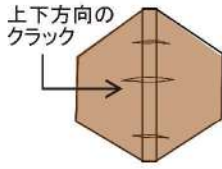
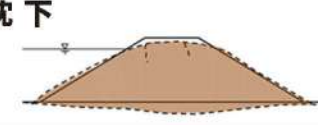
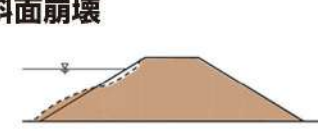
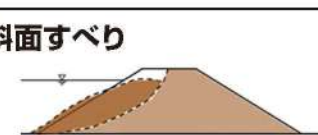
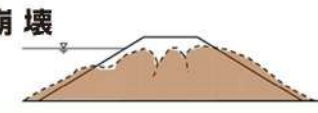
大きな地震により、堤防に亀裂が生じたり、沈下することで、漏水したり、強度が低下する可能性があります。水圧に耐えきれず堤防が決壊する恐れがあり、余震が続く場合は一層注意が必要です。

ため池決壊の種類と現象

■大雨時

すべり破壊 	堤体全体に水が浸透して、堤体内の強度が弱まり、法面にすべりが発生します。
---	--------------------------------------

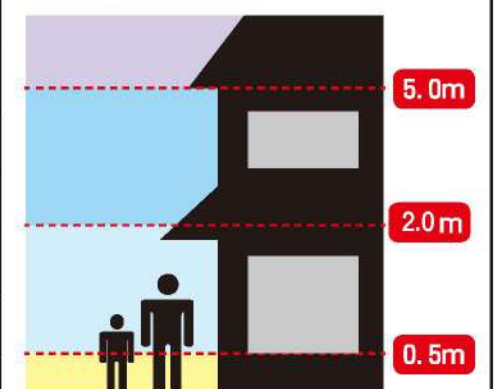
■地震時

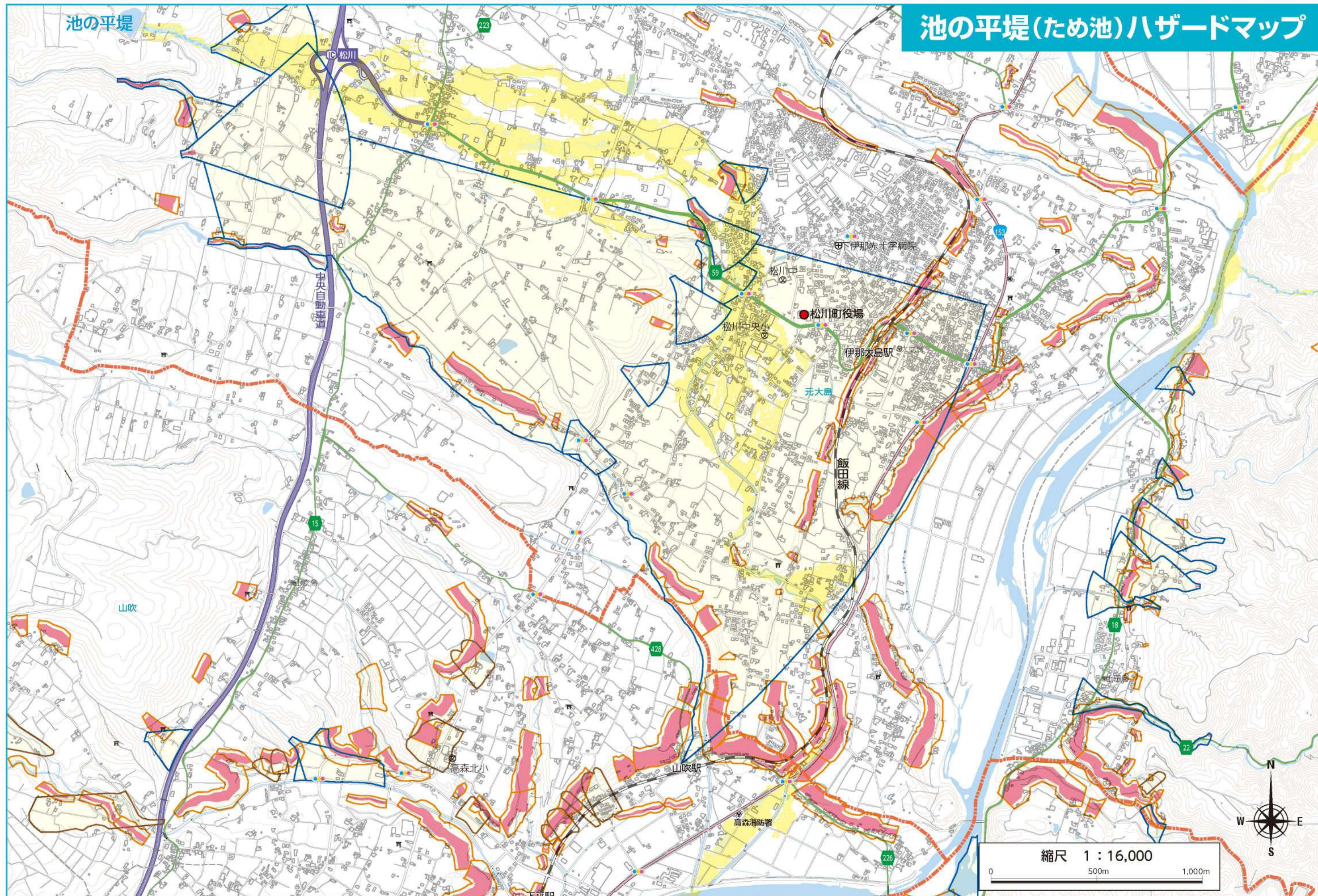
クラック（亀裂） 	堤体に生じたクラック（亀裂）はそのままみちになります。特に堤体の上下流方向に生じるクラックは注意が必要です。 
沈下 	柔らかい地盤で発生します。堤体の形状を保っている場合は軽傷ですが、クラックが発生したり法面にはらみが出る場合は重傷といえます。
斜面崩壊 	堤体内部に異状はなく、すぐに決壊には至りませんが、崩壊が全体に及ぶ場合には注意が必要です。一部の崩壊であっても、全体に広がったり内部が変形している場合もありますので注意してください。
斜面すべり 	法面の損傷が大きい場合には、大きな規模ですべりが発生します。すべりの前兆としてクラックが発生することもあります。
崩壊 	堤体などの損傷程度が大きく、決壊に至る可能性が大きく危険な状態です。

防災重点ため池 凡例 (浸水想定区域)

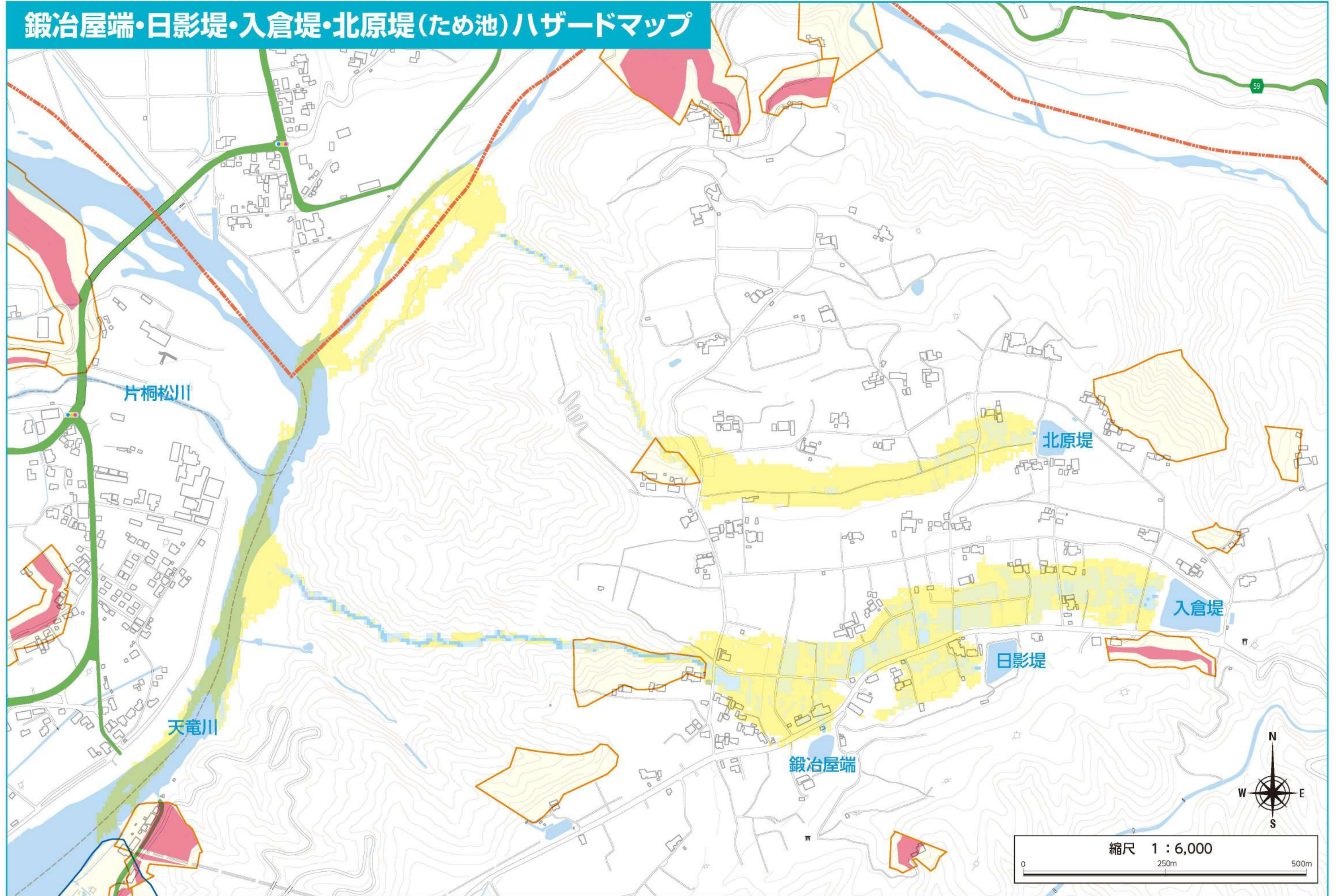
浸水した場合に想定される水深	浸水想定区域
5.0m以上の区域	
2.0～5.0m未満の区域	
1.0～2.0m未満の区域	
0.5～1.0m未満の区域	
0.5m未満の区域	

浸水の深さの目安



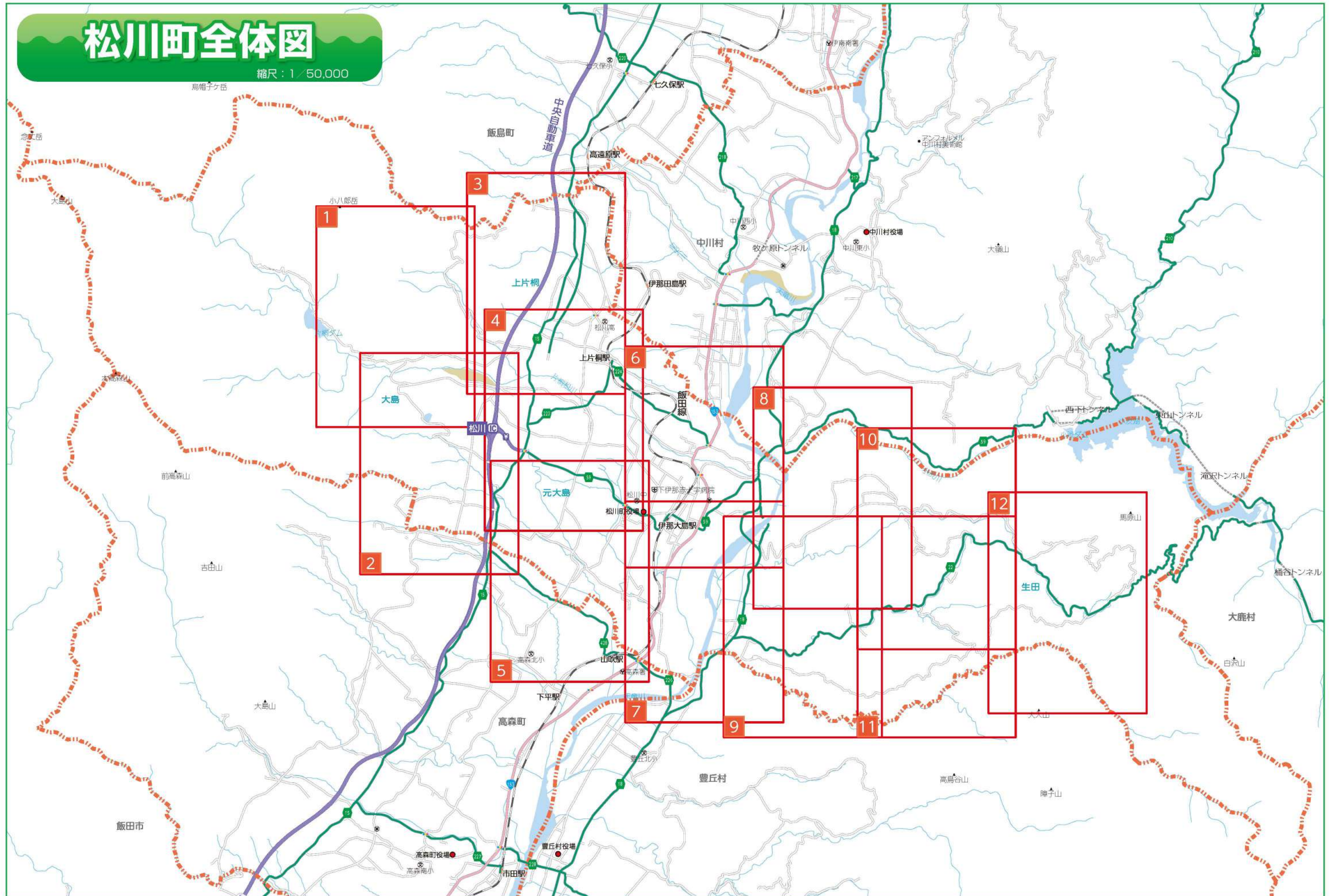


鍛冶屋端・日影堤・入倉堤・北原堤(ため池)ハザードマップ



松川町全体図

縮尺：1／50,000



地区別 地図ページ一覧

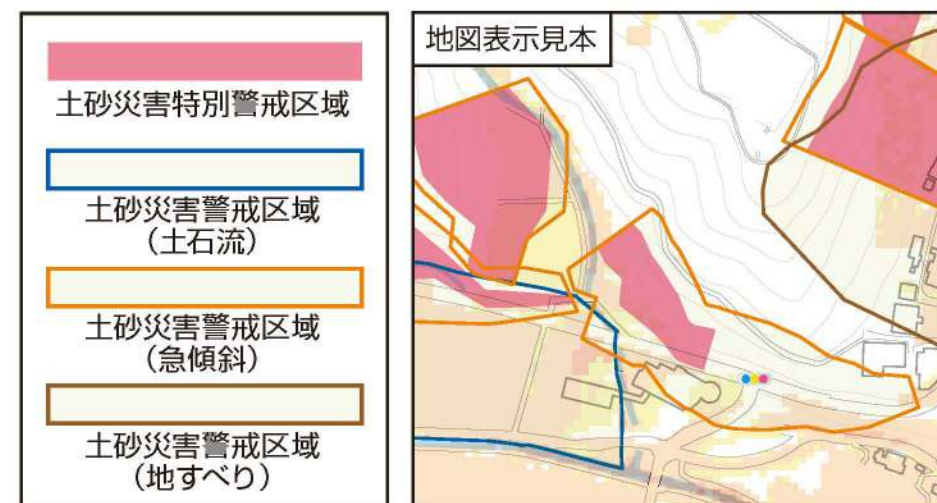
1 上片桐地区西部・上大島地区北部	P 9・10
2 上大島地区西部	P11・12
3 上片桐地区北部	P13・14
4 上片桐地区南部・上大島地区北部・名子地区北西部	P15・16
5 上大島地区南部・名子地区南部	P17・18
6 上片桐地区東部・名子地区北部・上新井地区北部	P19・20
7 上新井地区南部・古町地区・福与地区西部	P21・22
8 部奈地区	P23・24
9 福与地区東部・生東地区西部	P25・26
10 生東地区北部	P27・28
11 生東地区南部	P29・30
12 生東地区東部	P31・32

凡 例

● 天竜川及び県管理河川（10河川）浸水想定区域

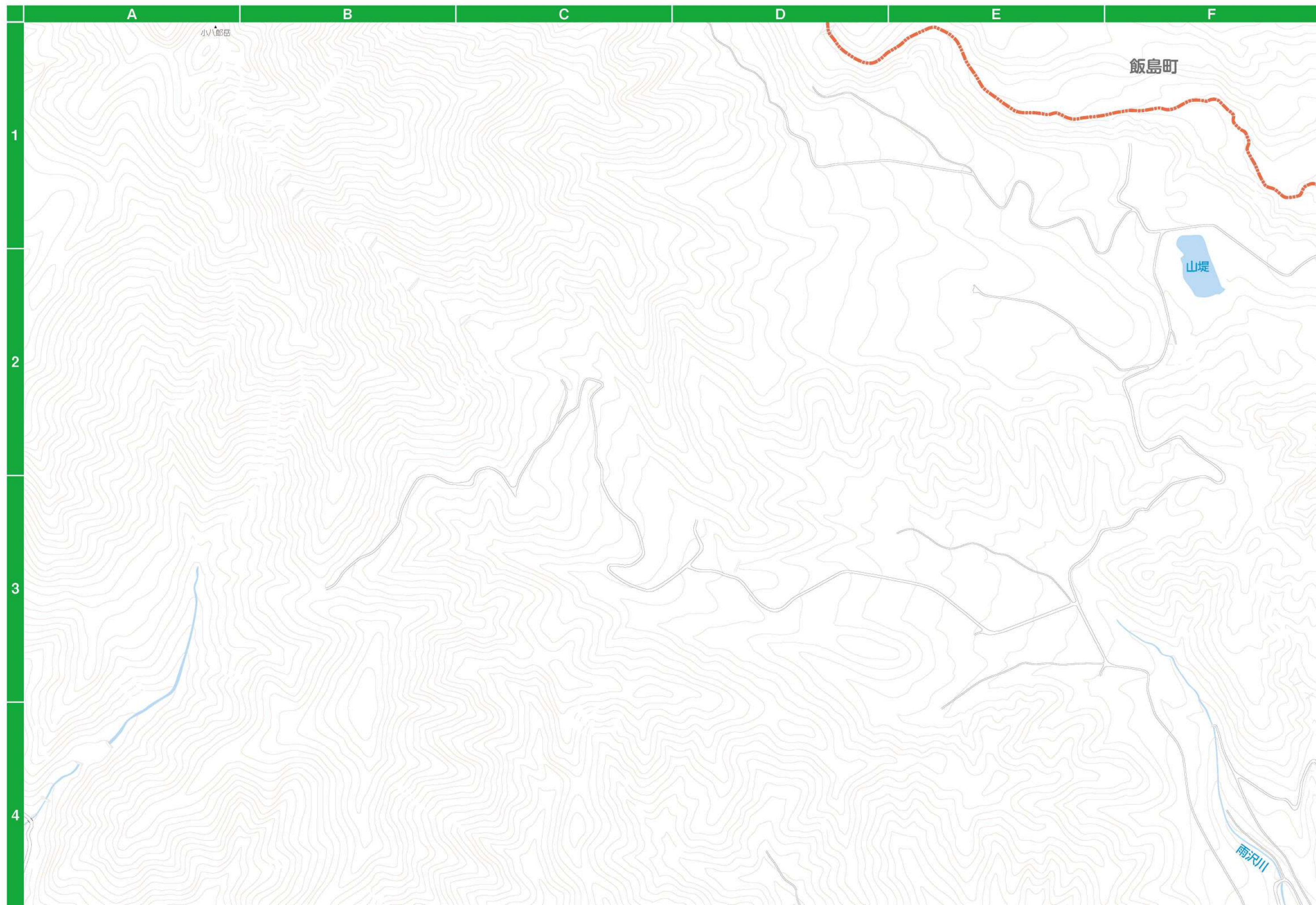
凡例（浸水想定区域）	想定最大規模	浸水の深さの目安
浸水した場合に想定される水深	浸水想定区域	
20.0m 以上の区域		
10.0～20.0m 未満の区域		
5.0～10.0m 未満の区域		
3.0～ 5.0m 未満の区域		
0.5～ 3.0m 未満の区域		
0.5m 未満の区域		
家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)		
家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸浸食)		

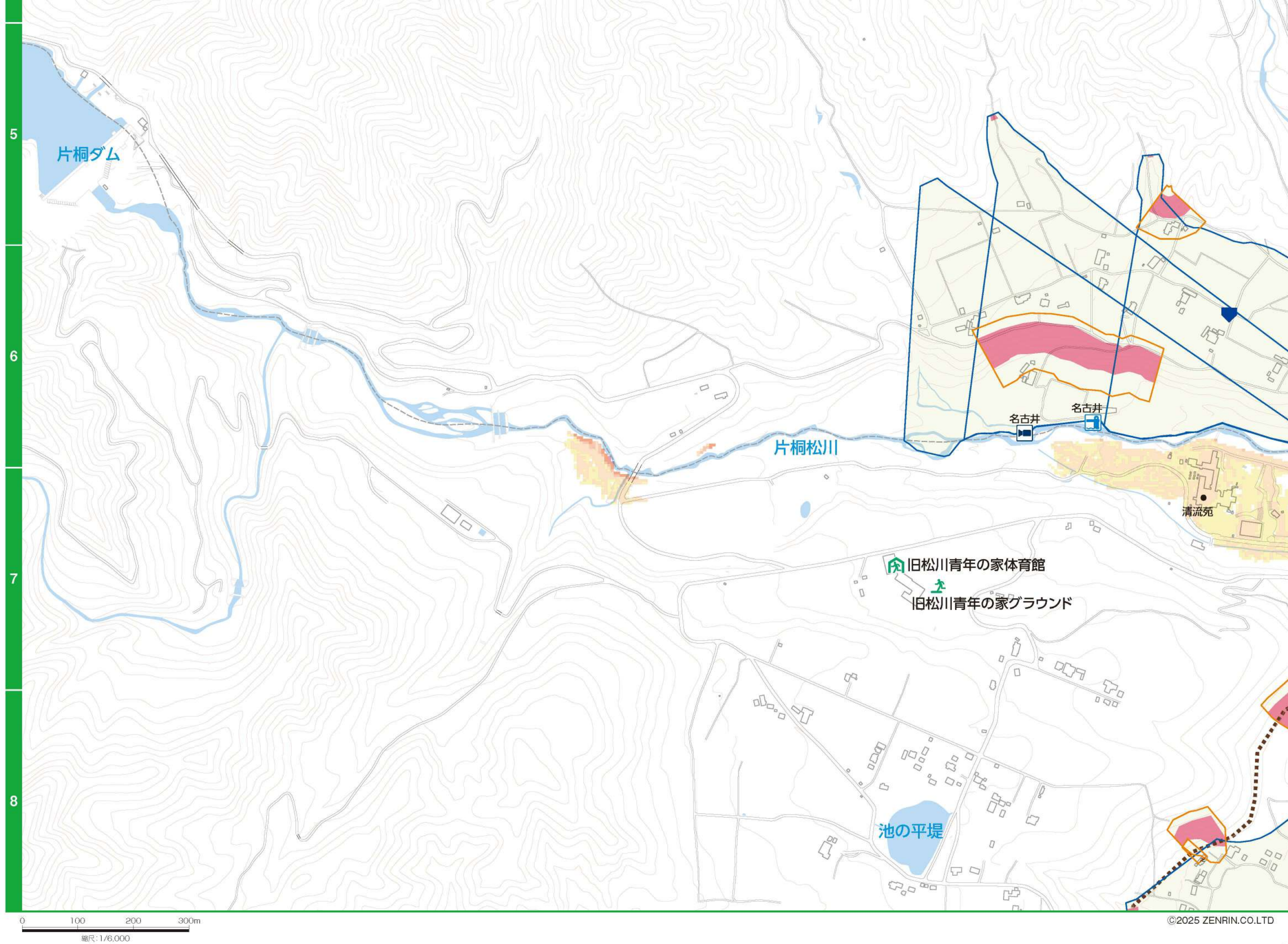
● 土砂災害警戒区域



● 地図凡例

指定緊急避難場所	水位計	交番・駐在所
指定一般避難所	雨量観測所	医療機関
指定福祉避難所	河川監視カメラ	郵便局
災害用ヘリポート	水防倉庫	国道
水位観測所	役場	県道・主要地方道

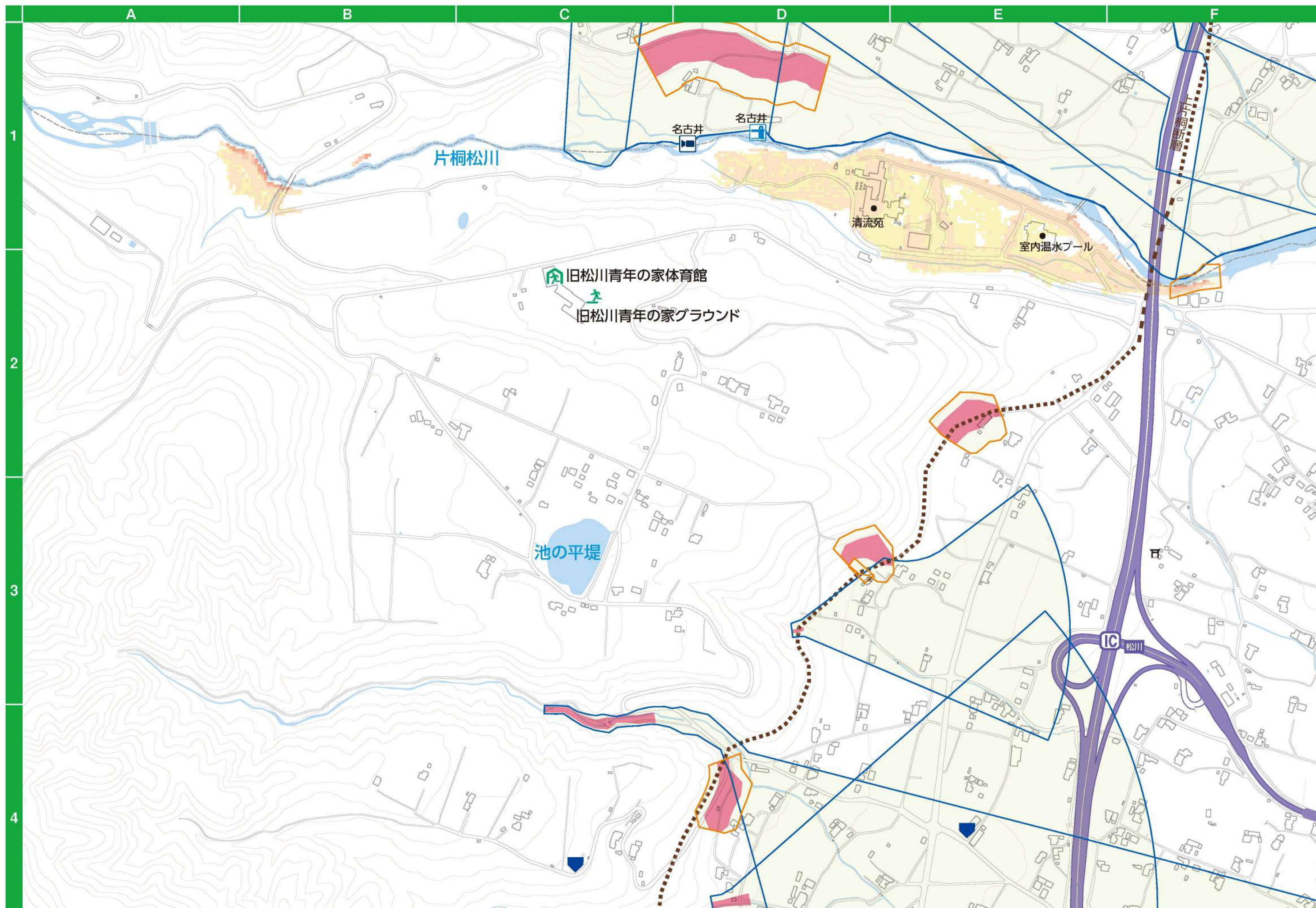




0 100 200 300m
縮尺: 1/6,000

©2025 ZENRIN.CO.LTD

2 上大島地区西部

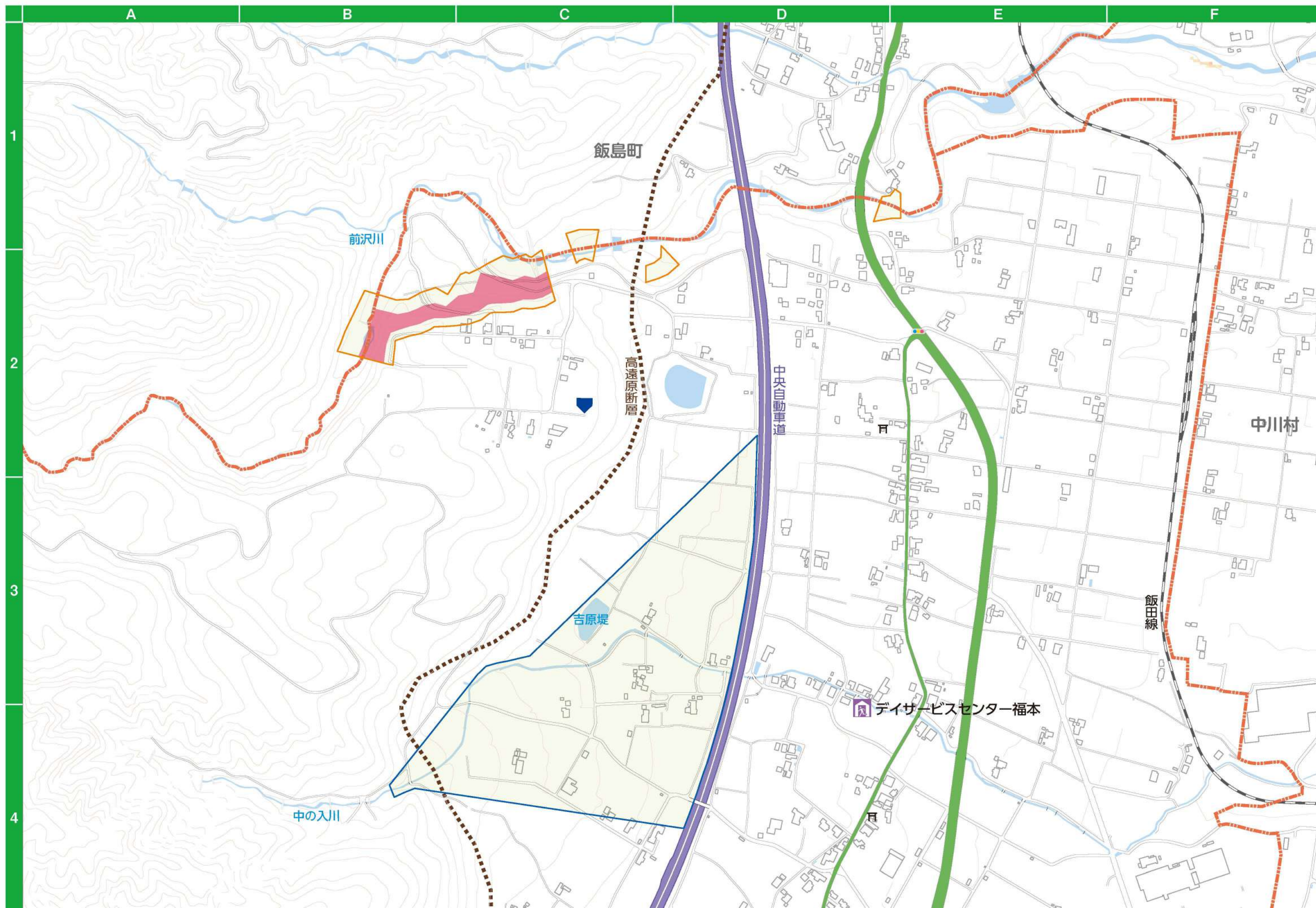


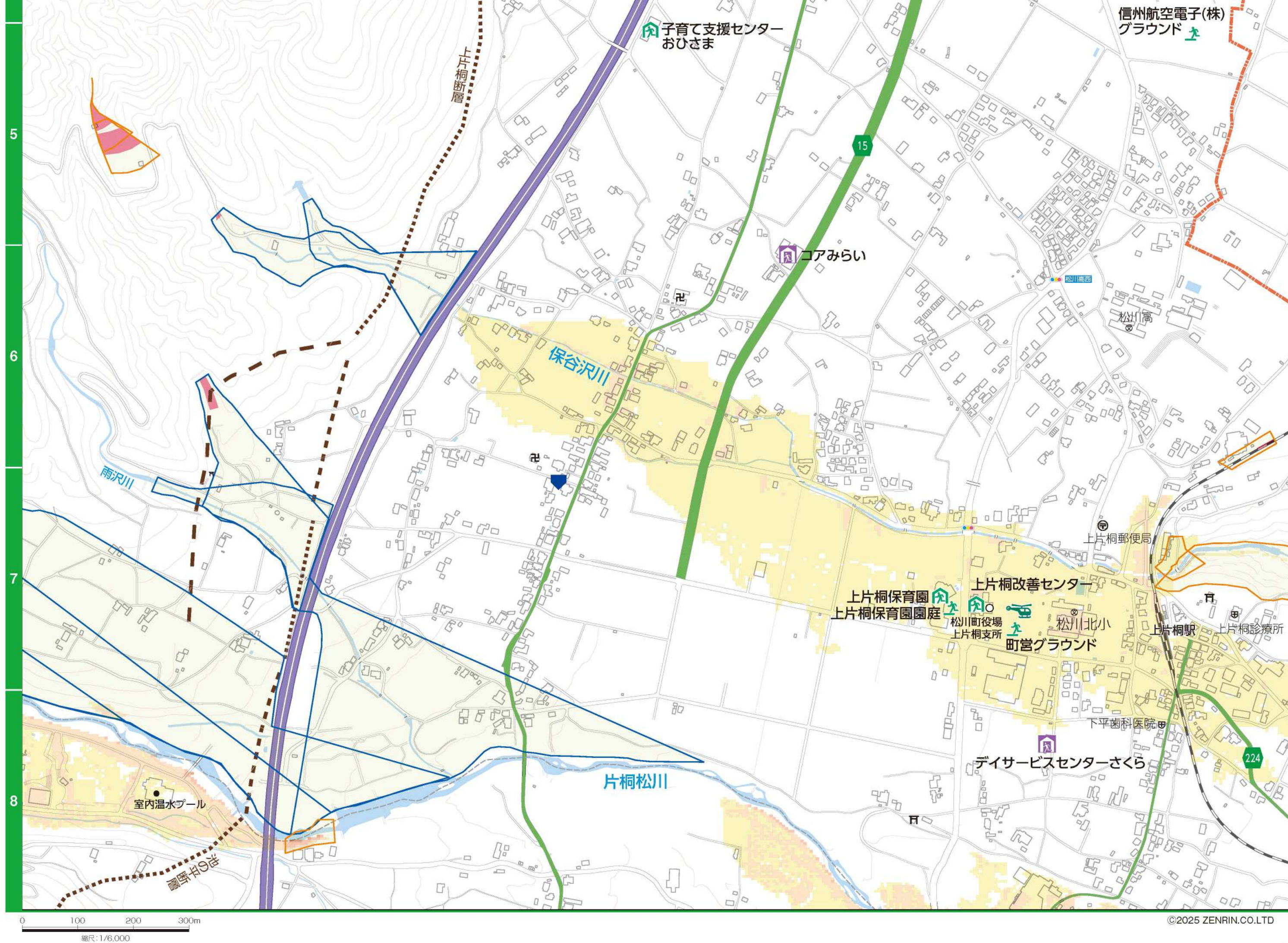


0 100 200 300m
縮尺: 1/6,000

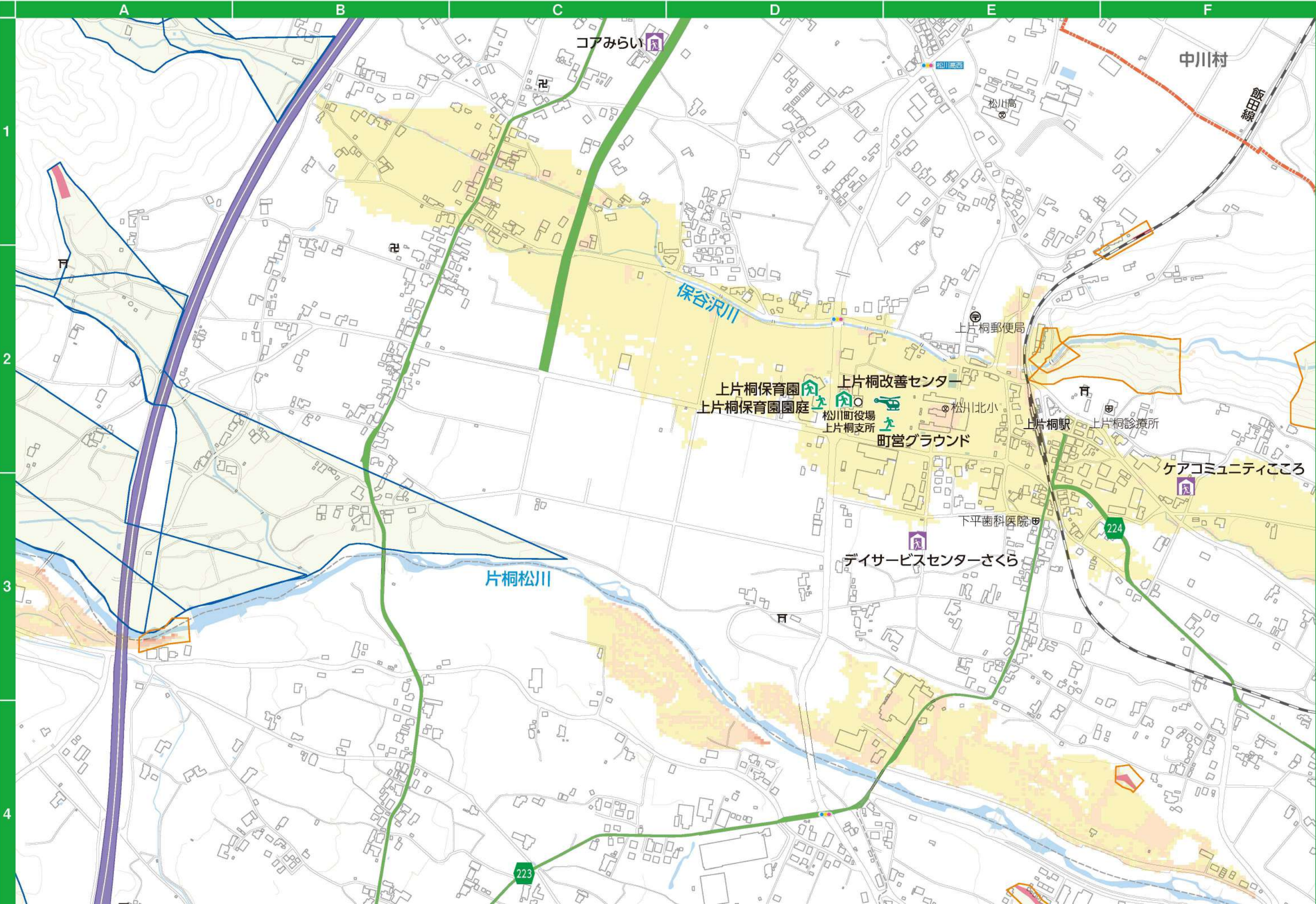
©2025 ZENRIN.CO.LTD

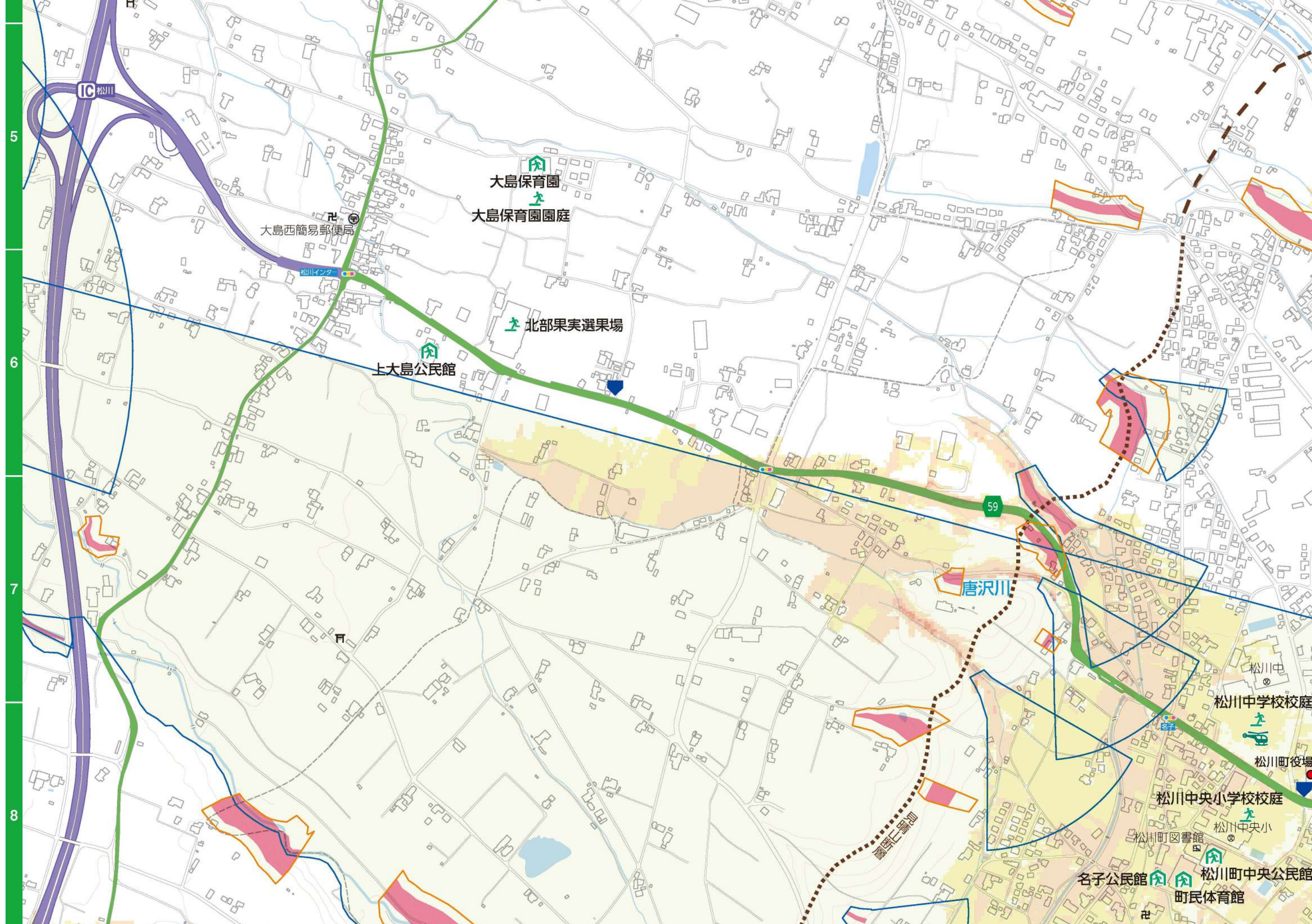
3 上片桐地区北部



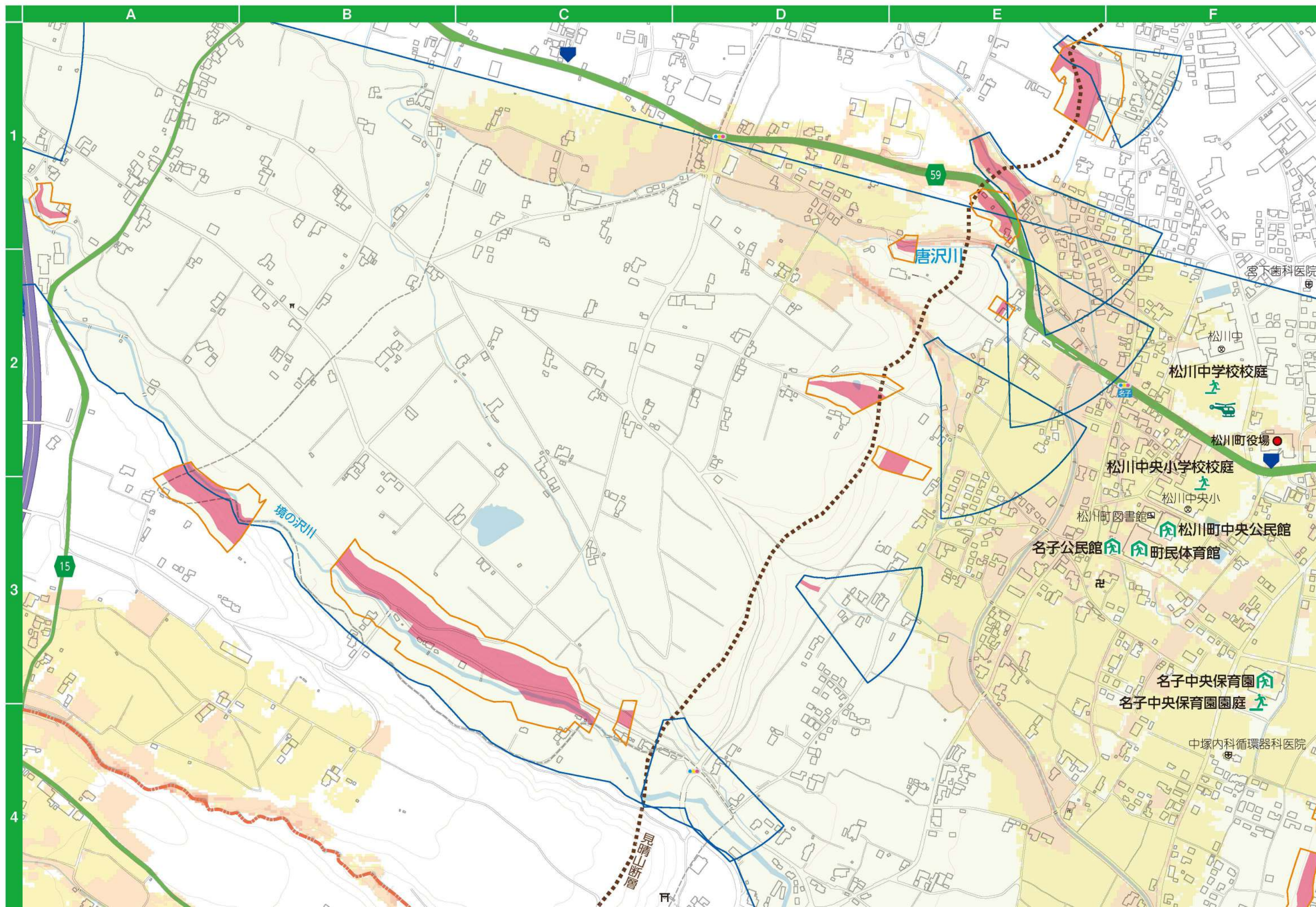


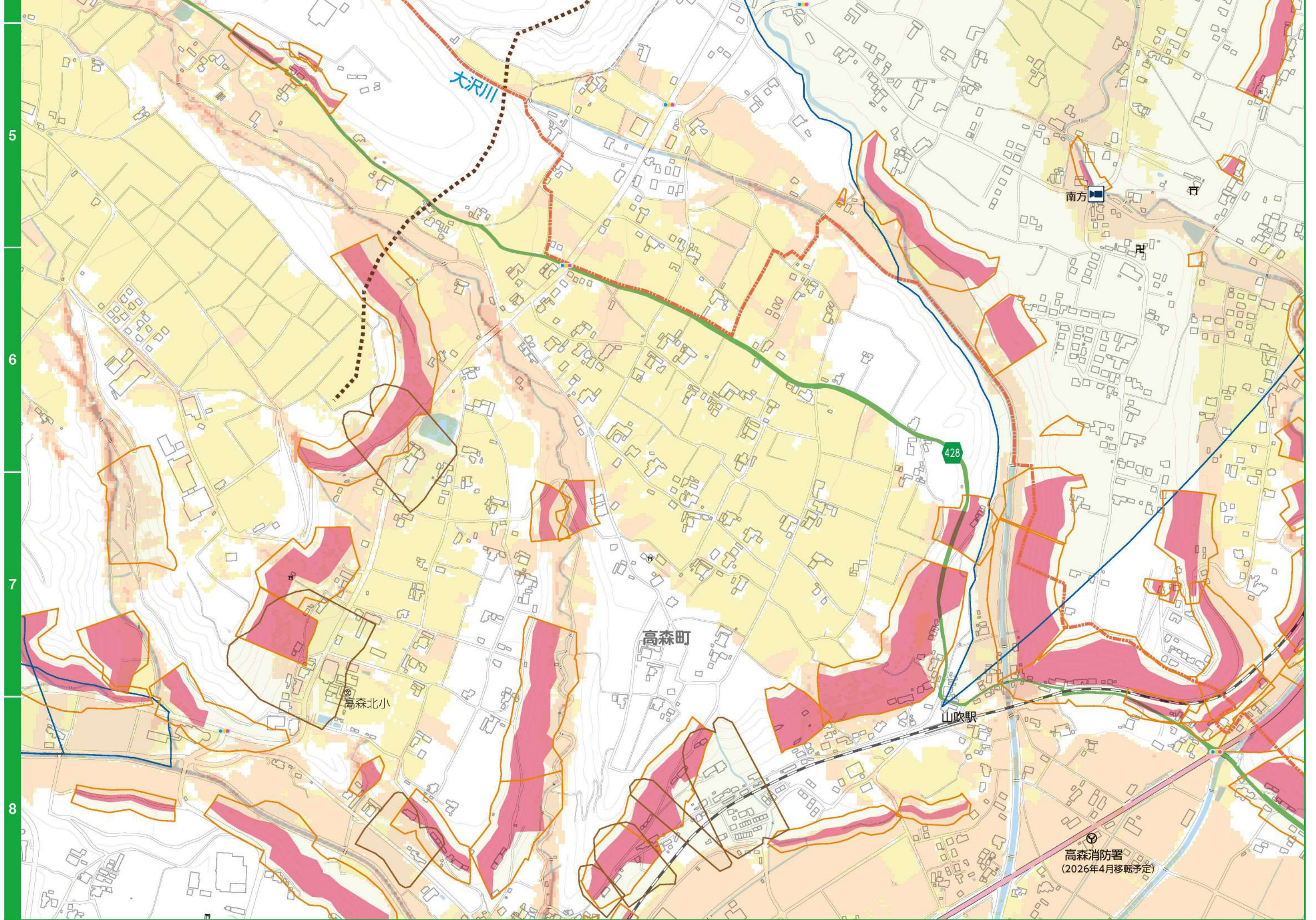
4





5 上大島地区南部・名子地区南部

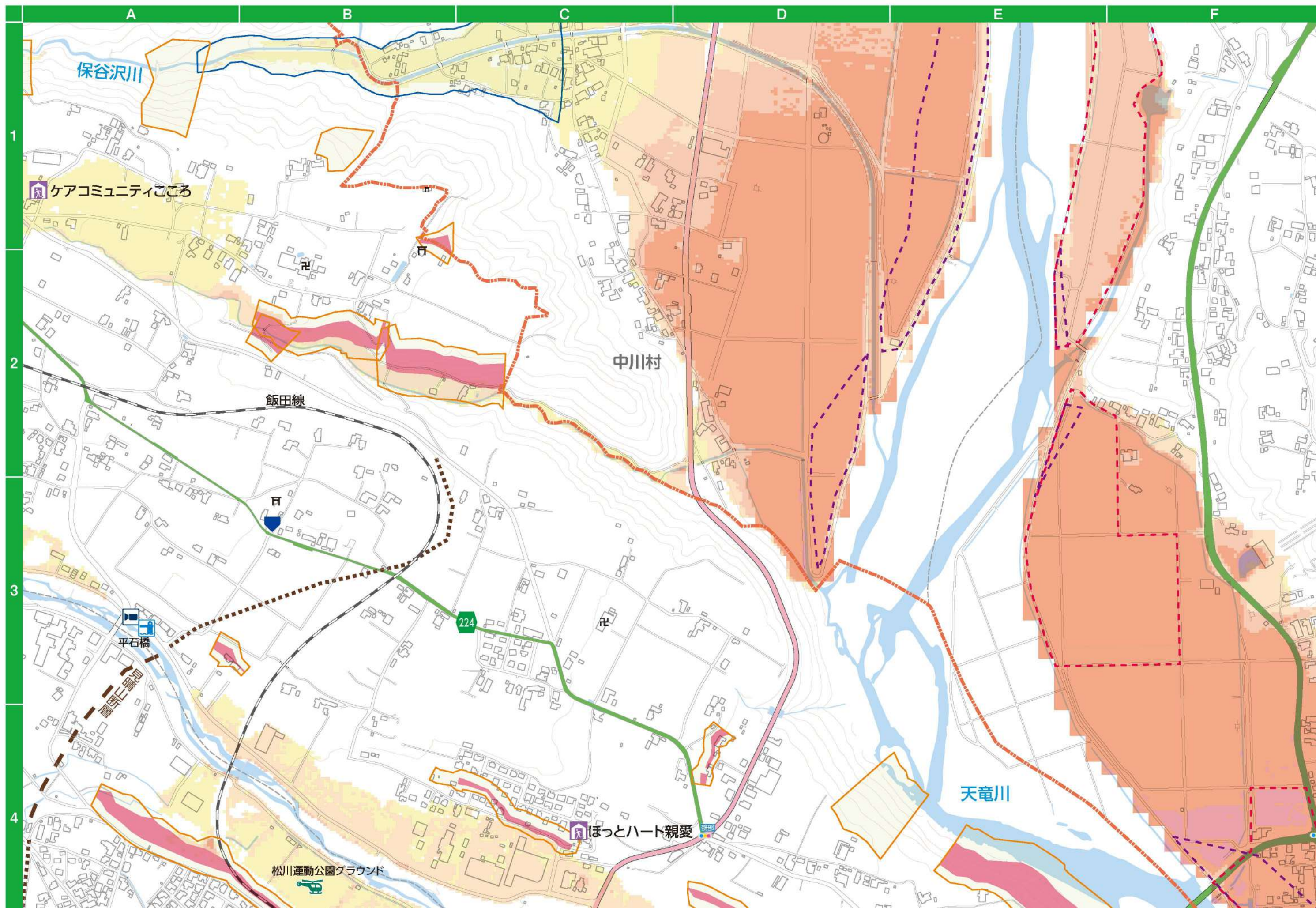


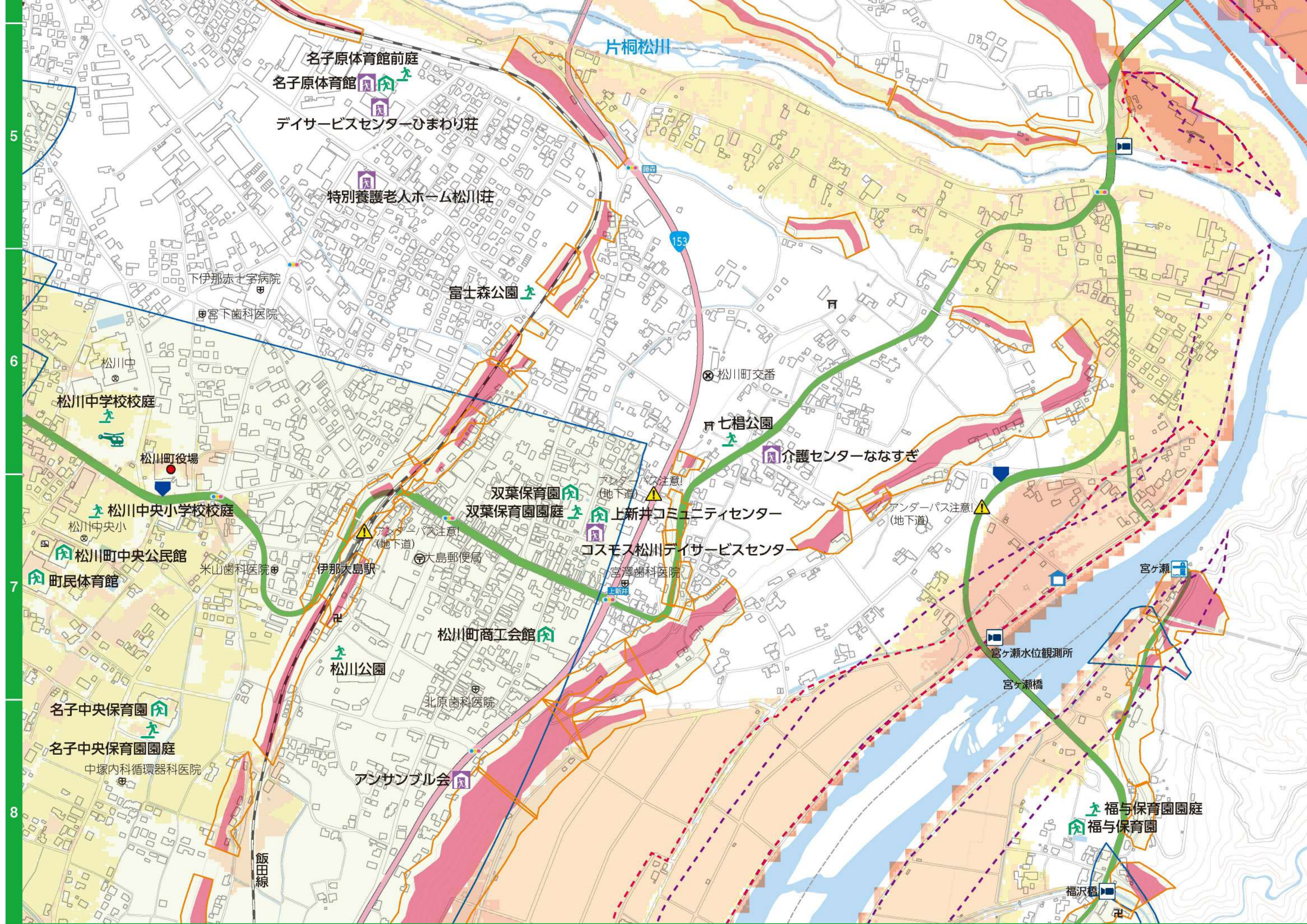


0 100 200 300m
縮尺: 1/6,000

©2025 ZENRIN.CO.LTD

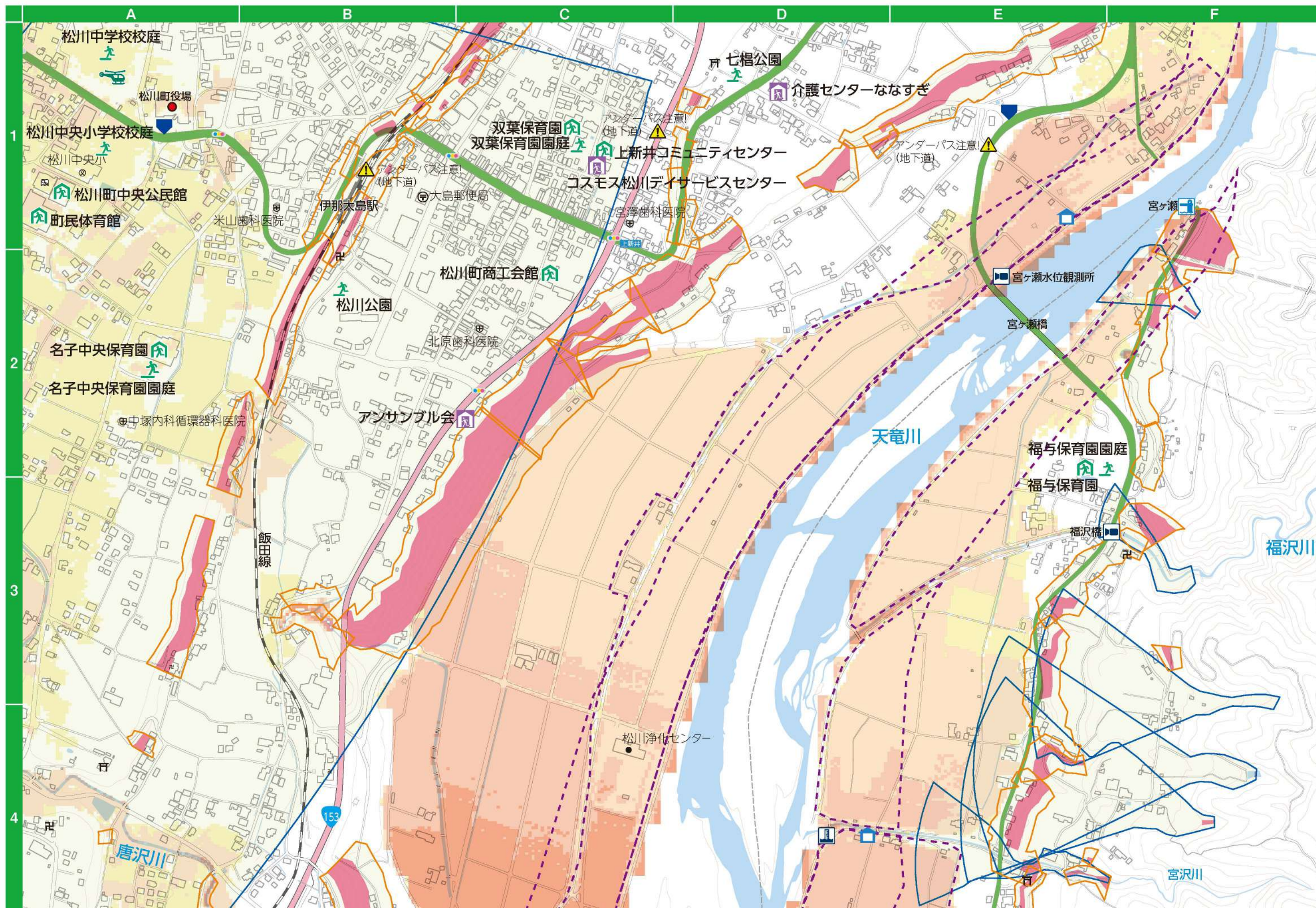
6 上片桐地区東部・名子地区北部・上新井地区北部

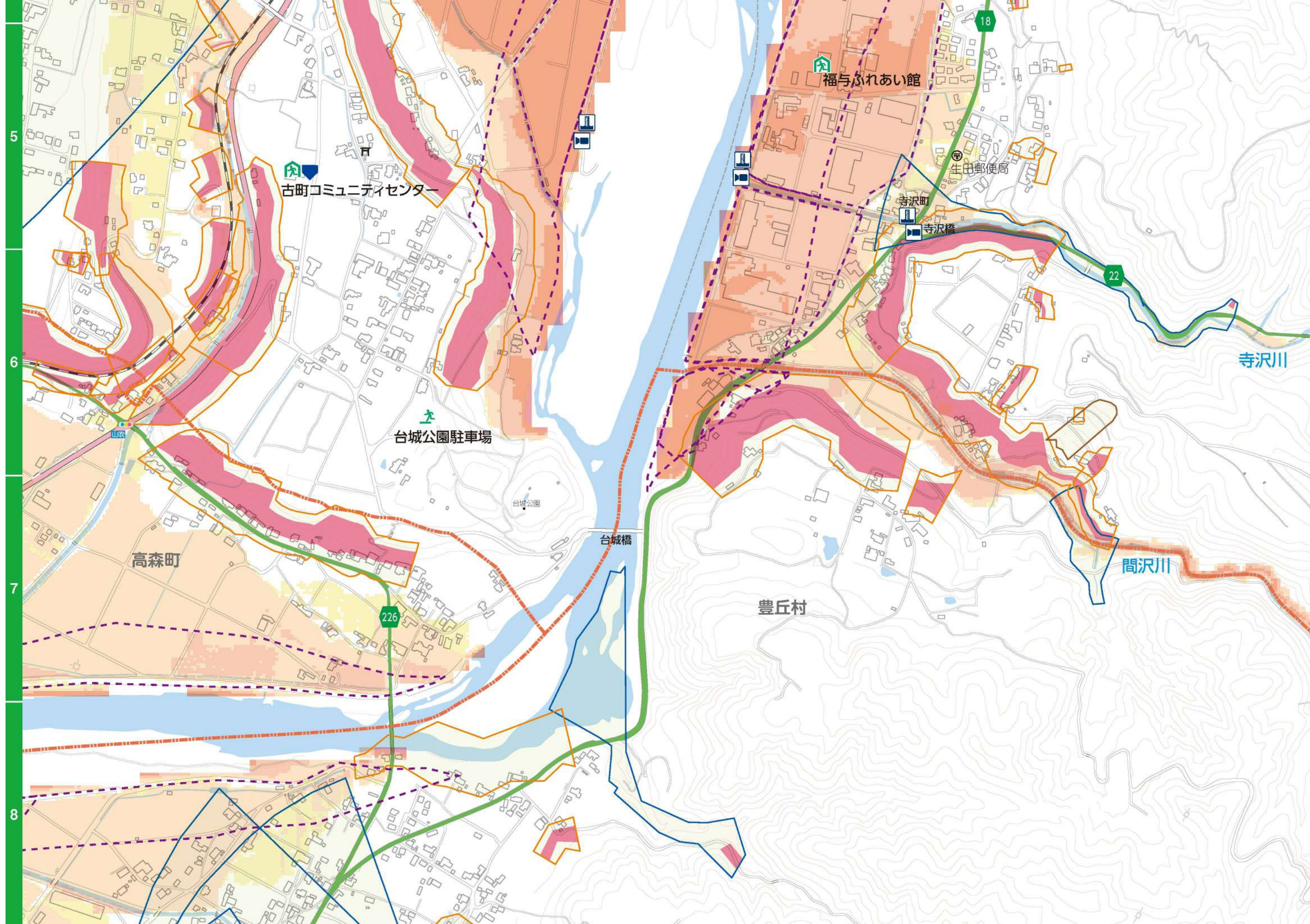




0 100 200 300m
縮尺: 1/6,000

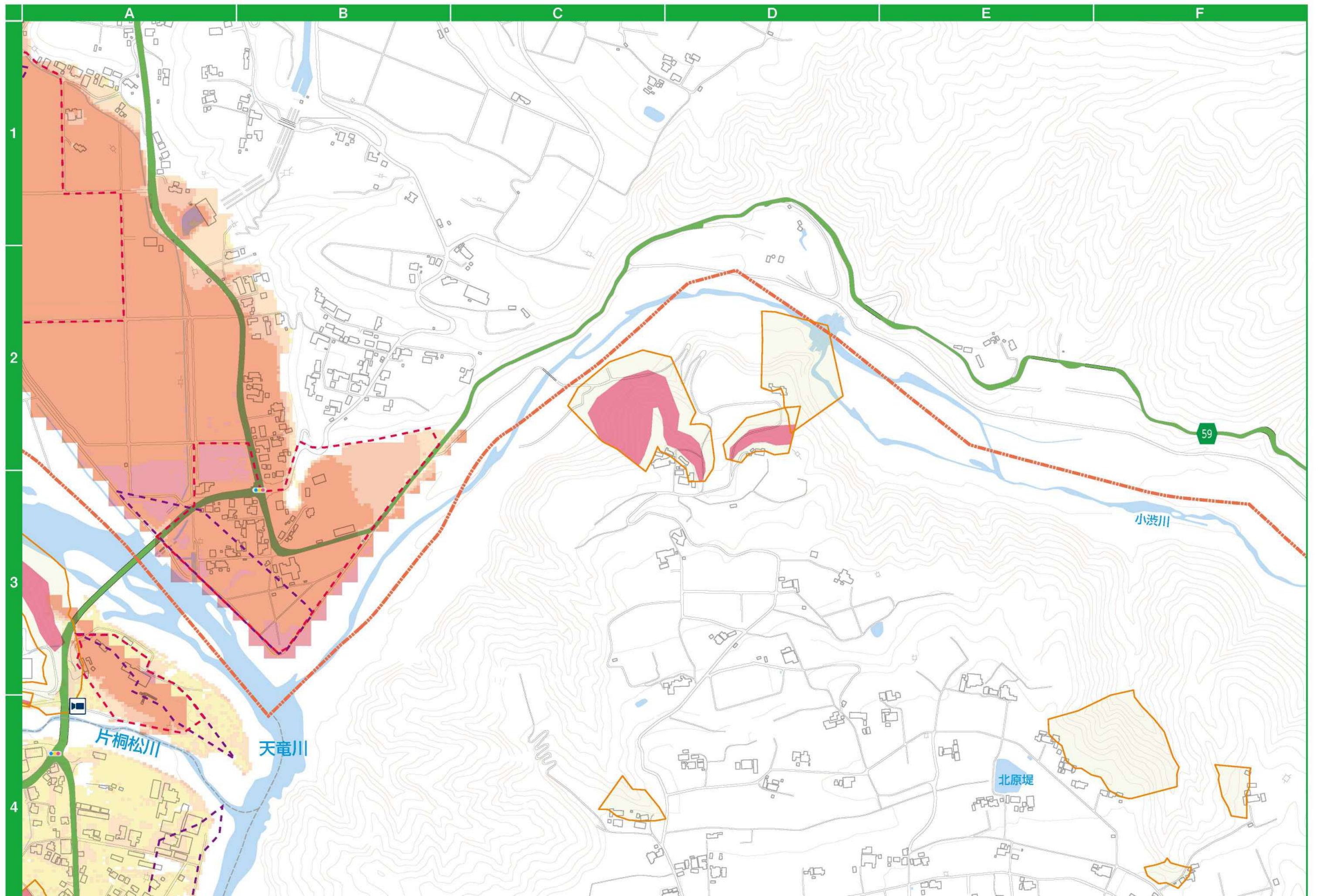
©2025 ZENRIN.CO.LTD

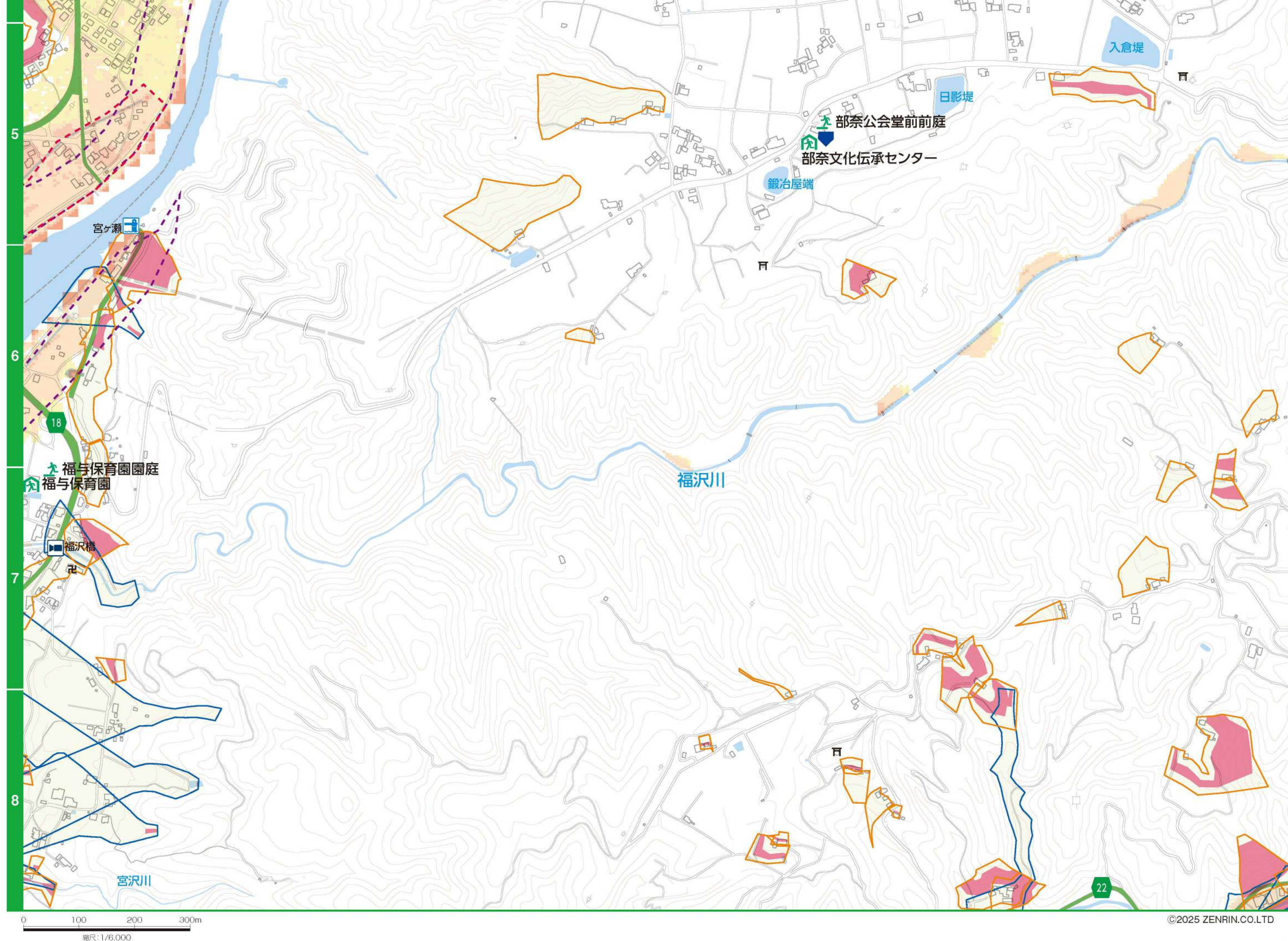




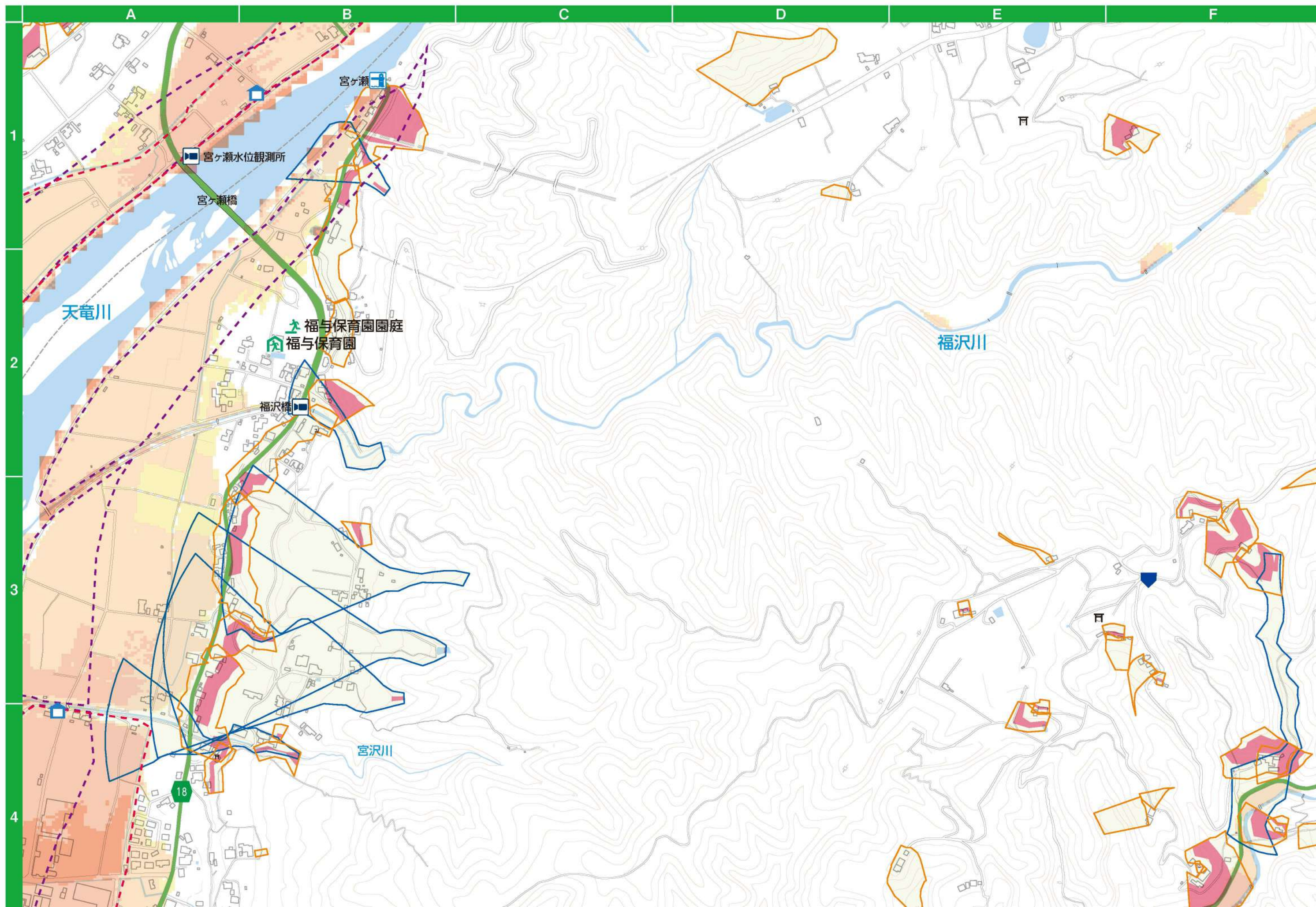
0 100 200 300m
縮尺: 1/6,000

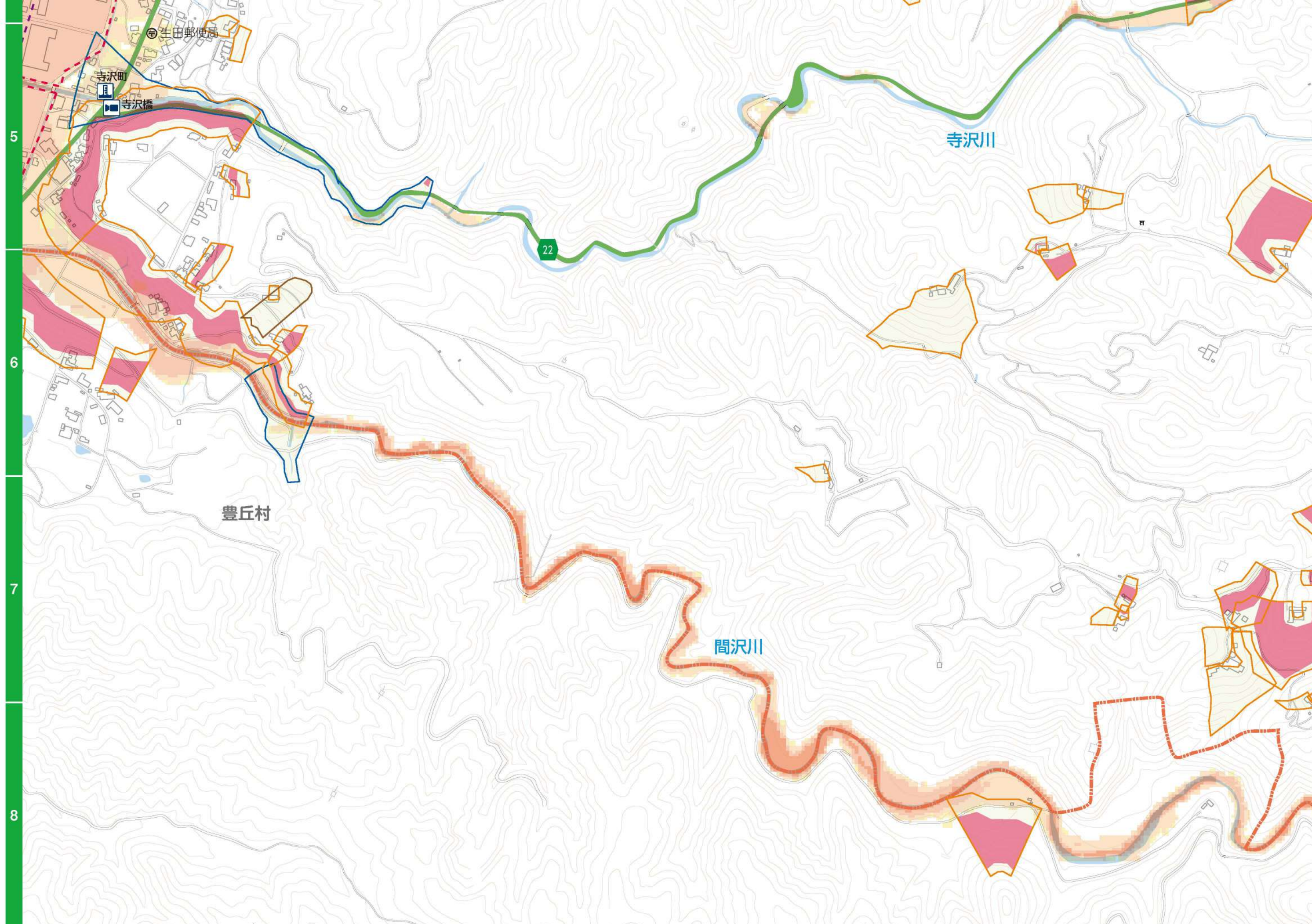
8 部奈地区





9 福与地区東部・生東地区西部

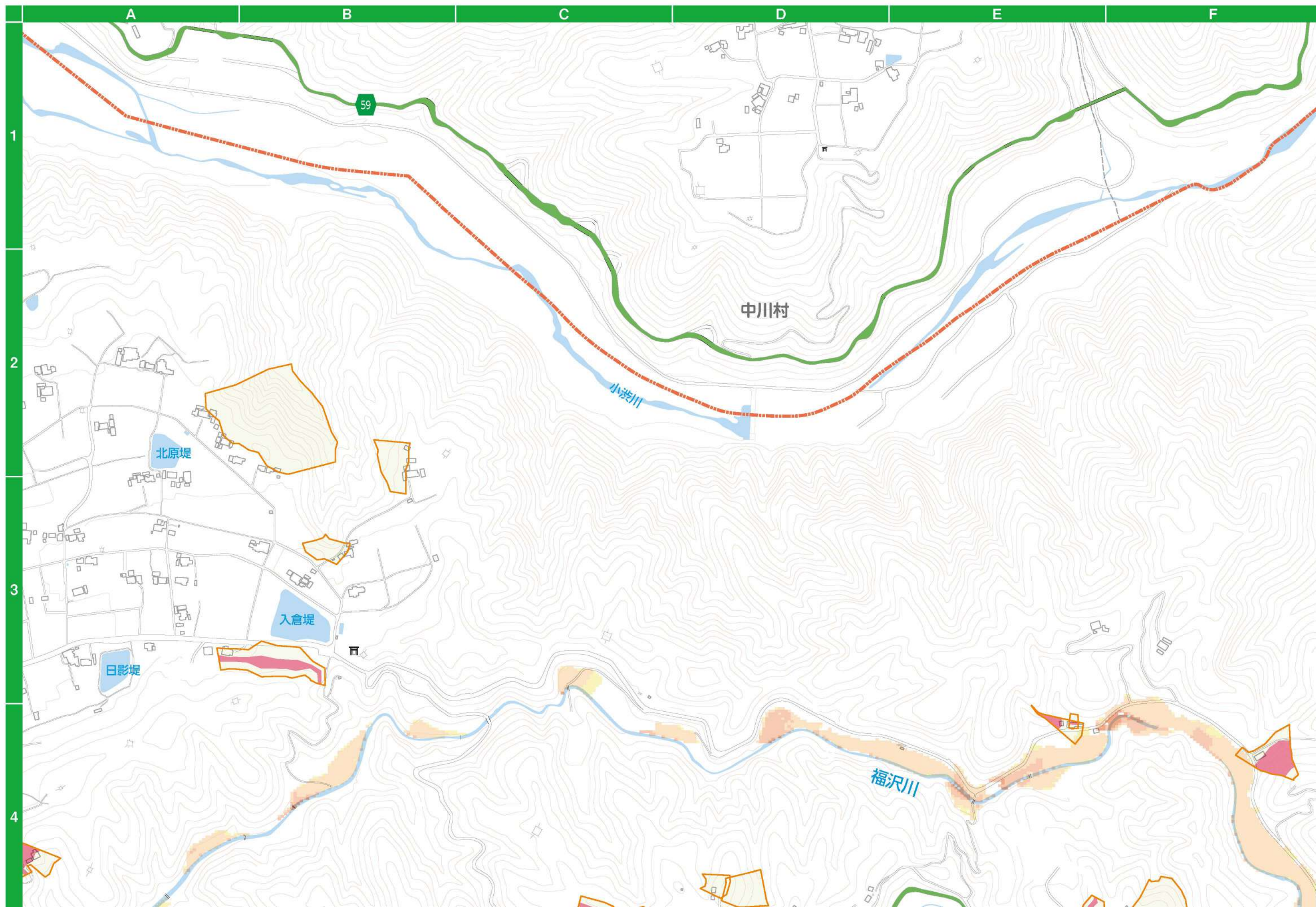


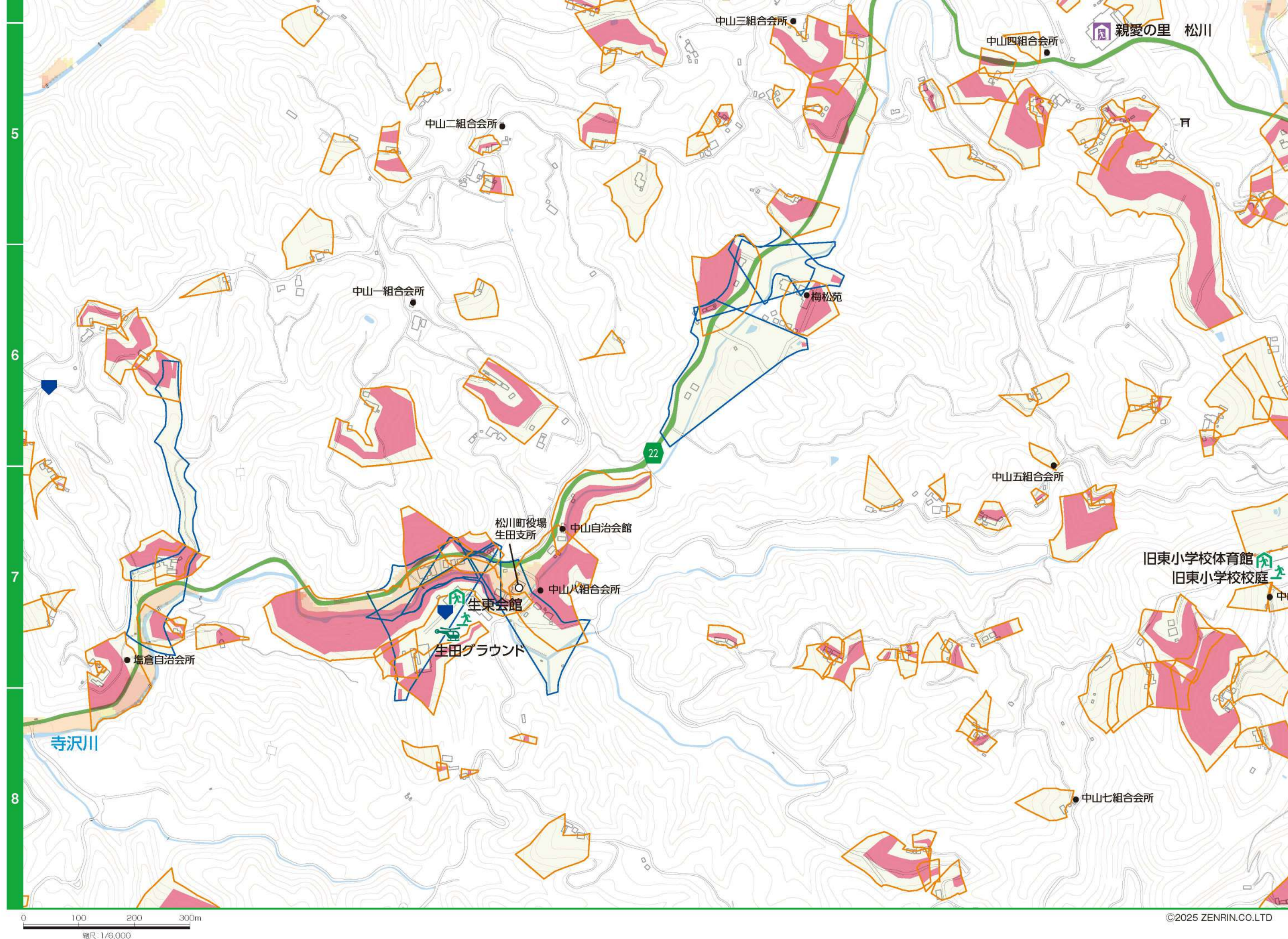


0 100 200 300m
縮尺: 1/6,000

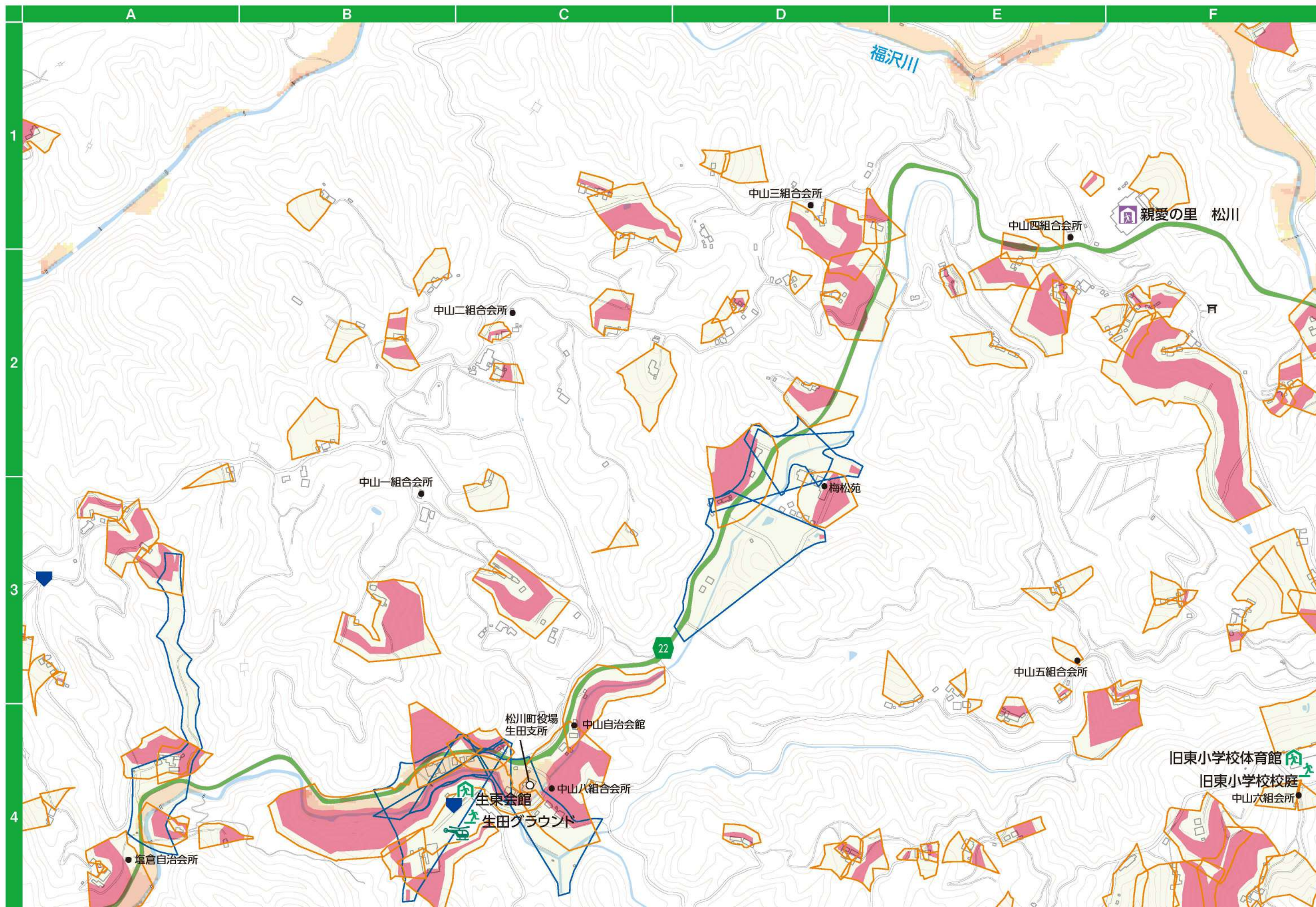
©2025 ZENRIN.CO.LTD

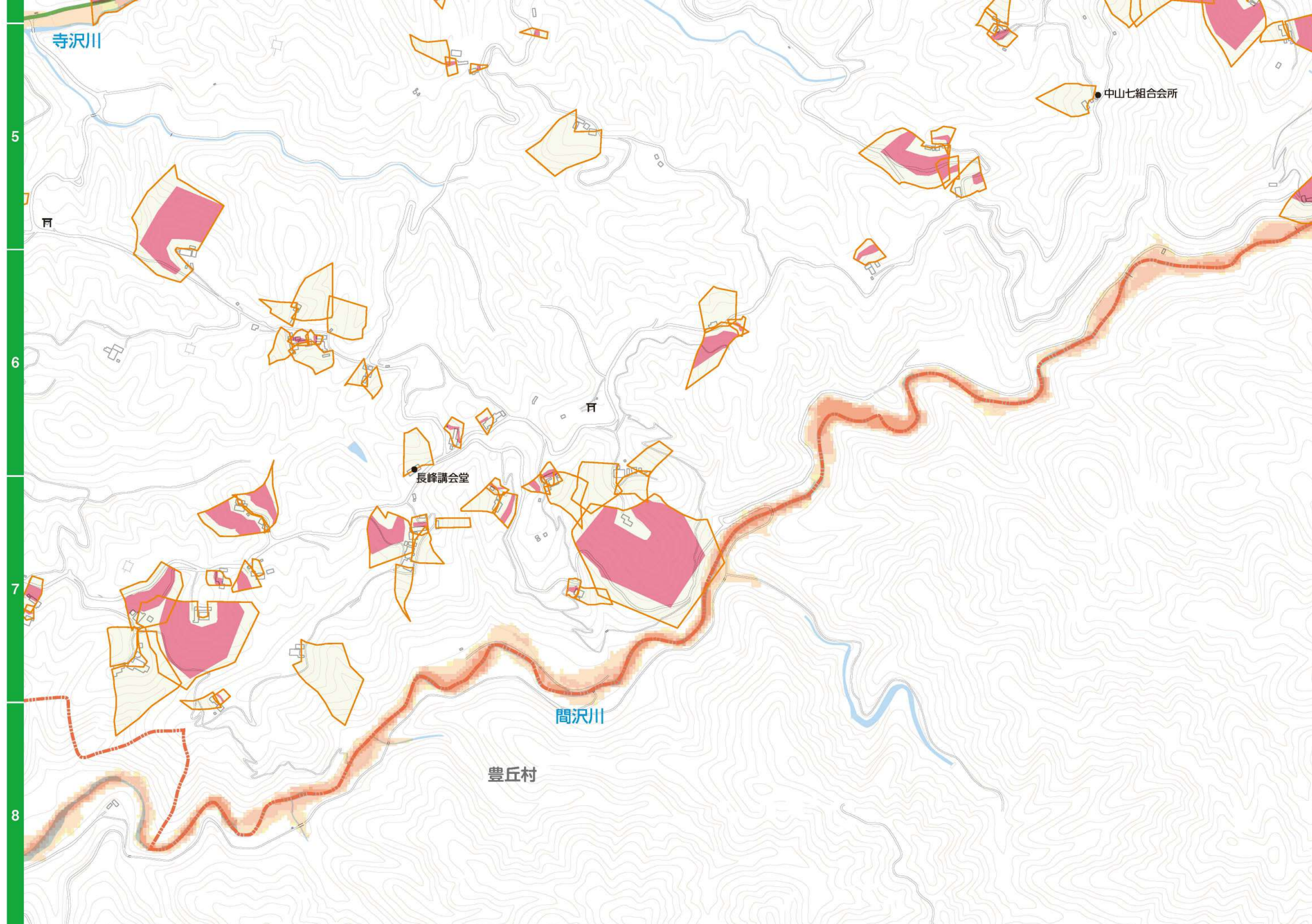
10 生東地区北部





11 生東地区南部

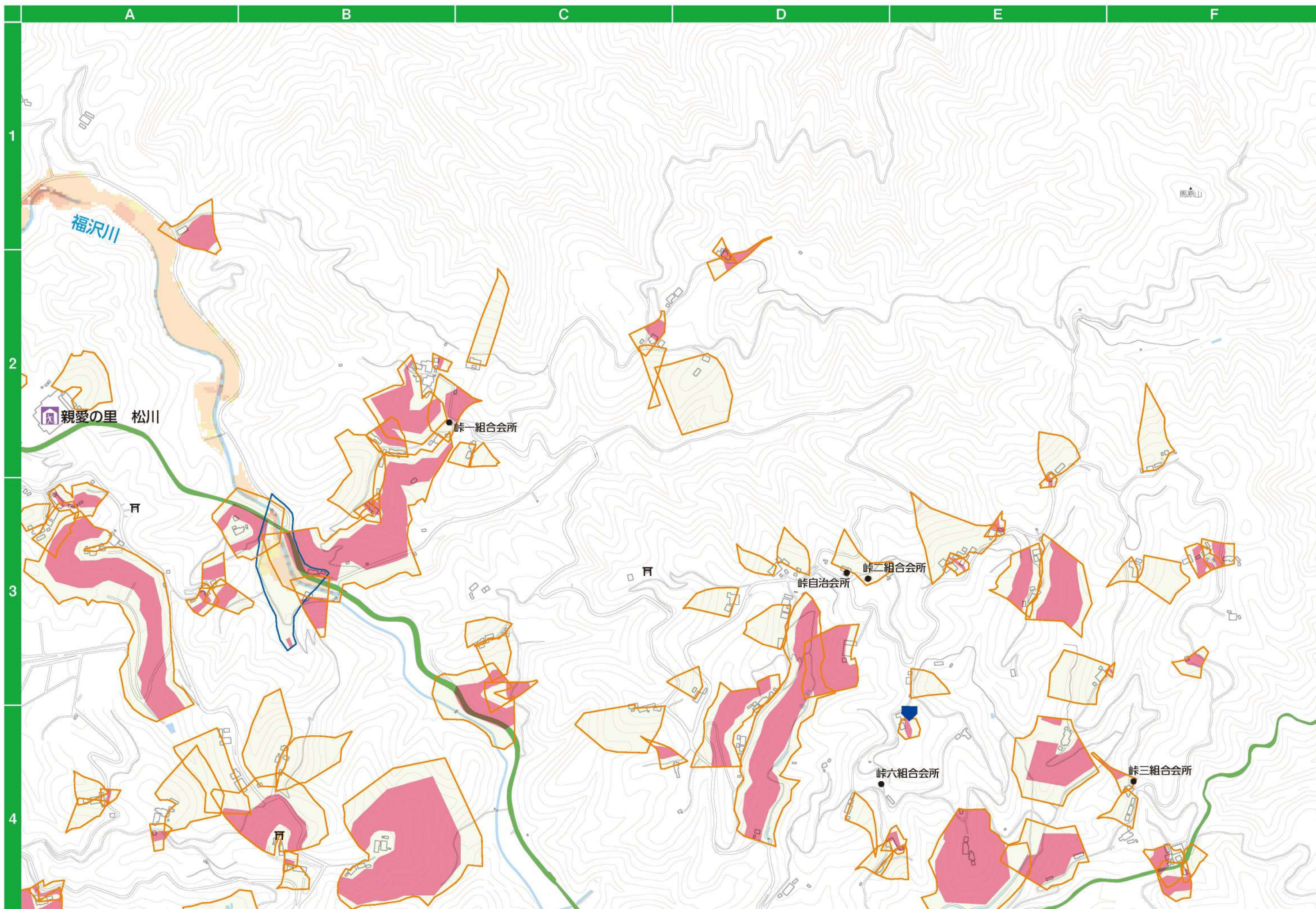


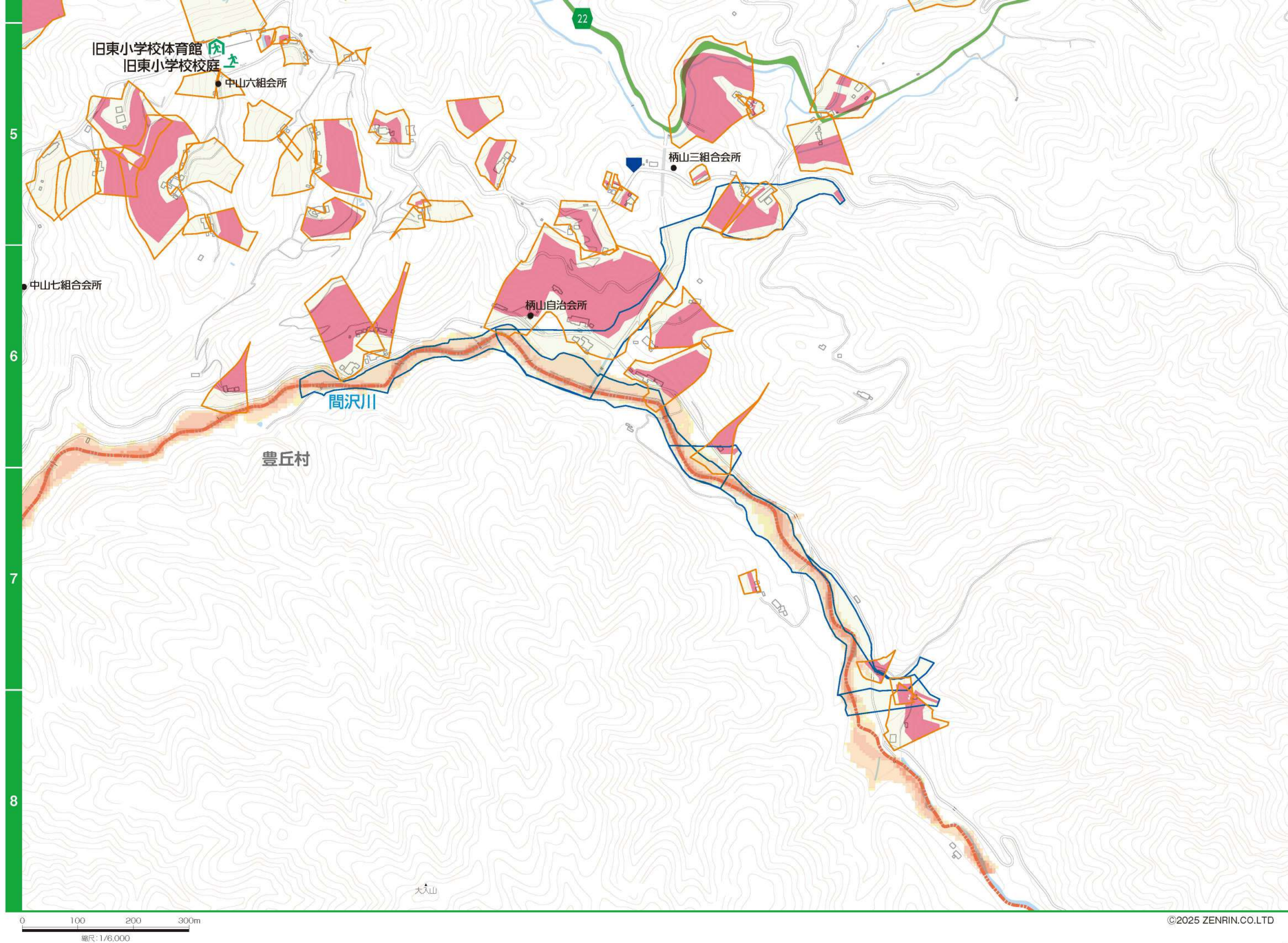


0 100 200 300m
縮尺: 1/6,000

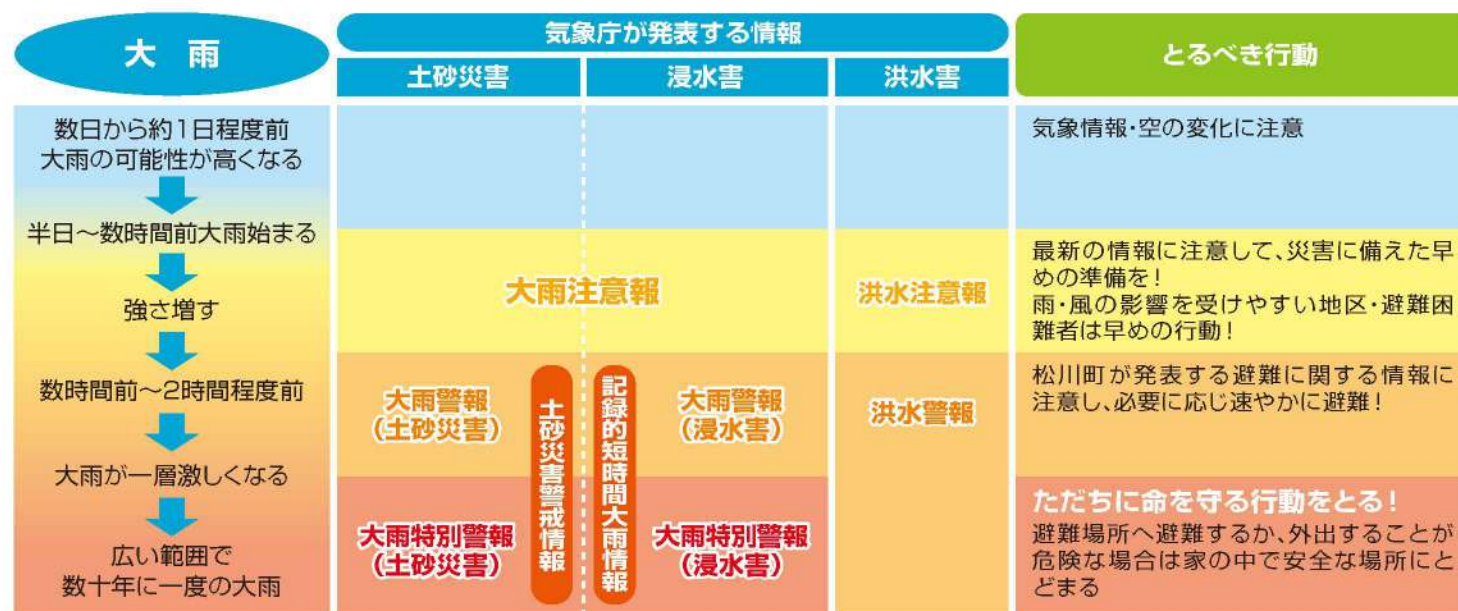
©2025 ZENRIN.CO.LTD

12 生東地区東部





大雨に関する気象情報



大雨注意報・警報の発表基準

大雨注意報	大雨によって災害が起こる恐れがあると予測される場合。	大雨警報	大雨によって重大な災害が起こる恐れがあると予測される場合。
発表基準	(浸水害) 表面雨量指数 (土砂災害) 土壌雨量指数	発表基準	(浸水害) 表面雨量指数 (土砂災害) 土壌雨量指数
	5 95		10 137

※表面雨量指数とは、降った雨が地表面にどれだけ溜まったかを、数値化したもの
※土壌雨量指数とは、土壌中に貯まっている雨の量を土壌浸透や流出等を用いて計算したもの

土砂災害警戒情報

大雨による土砂災害発生の危険度が高まった時、町長が避難指示等を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、長野県と長野地方気象台が共同で発表する情報。

大雨特別警報の発表基準

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合。

雨の強さと降り方

1時間雨量(ミリ)	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10～20	やや強い雨	ザーザーと降る。	この程度の雨でも長く続くとときは注意が必要。
20～30	強い雨	どしゃ降り。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
30～50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。	山崩れ・崖崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。
50～80	非常に激しい雨	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く。)	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。	雨による大規模な災害が発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

避難情報と警戒レベル

避難情報の発令

松川町では、災害が発生した時、または発生する恐れがある時に、避難に関する情報を発令します。なお、水害・土砂災害の場合には、下記のとおり、「警戒レベル」を付け加えてお知らせします。(町から警戒レベル3または警戒レベル4が発令された地域にお住まいの皆さんは、速やかに危険な場所から避難してください)

避難前の段階

警戒レベル 1	早期注意情報 [気象庁が発表]	災害への心構えを高めましょう。
警戒レベル 2	大雨・洪水注意報等 [気象庁が発表]	避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認しましょう。

避難の段階

警戒レベル 3 大雨・洪水警報に相当 氾濫警戒情報	高齢者等避難	災害の恐れがある状況です。 危険な場所から高齢者等は避難しましょう。
警戒レベル 4 土砂災害警戒情報に相当 氾濫危険情報	避難指示	災害の恐れが高い状況です。 危険な場所から全員避難しましょう。
警戒レベル 5 大雨特別警報に相当 氾濫発生情報	緊急安全確保	既に災害発生又は緊迫した状況です。 命の危険 直ちに安全確保! しましょう。

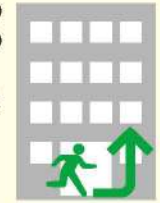
避難する タイミング

- 明るいうちに
- 暴風になる前に
- 異常を発見したら (がけ崩れの兆候、河川付近では水位の上昇など)

適切な避難行動をとしましょう

洪水や土砂災害などで自宅が危険なときは、避難場所へ避難するという行動はとても重要ですが、実際に災害が直近に迫っていて、時間的な猶予がない場合などには、避難行動をとることが、逆に危険を招くこともあります。状況に応じて行動しましょう。

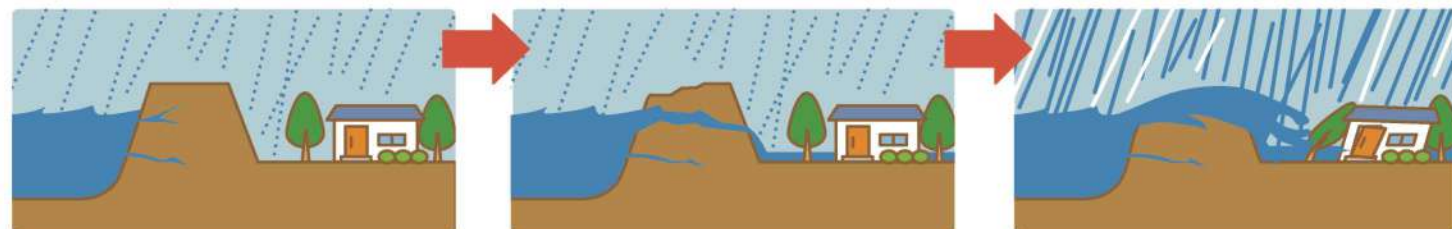
一人一人が自らの判断で避難行動をとることが原則です。災害から命を守るためには、自分の地域や身の回りの危険な場所を事前に確認して、いざという時にどのような避難行動をとればよいか日頃から考えておきましょう。

立ち退き避難(水平避難)	屋内安全確保(垂直避難)
避難所等などに避難すること 	自宅や近隣の丈夫な建物の2階などに避難すること 

洪水について

洪水のメカニズム

洪水は、大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を超えるなどして起こります。



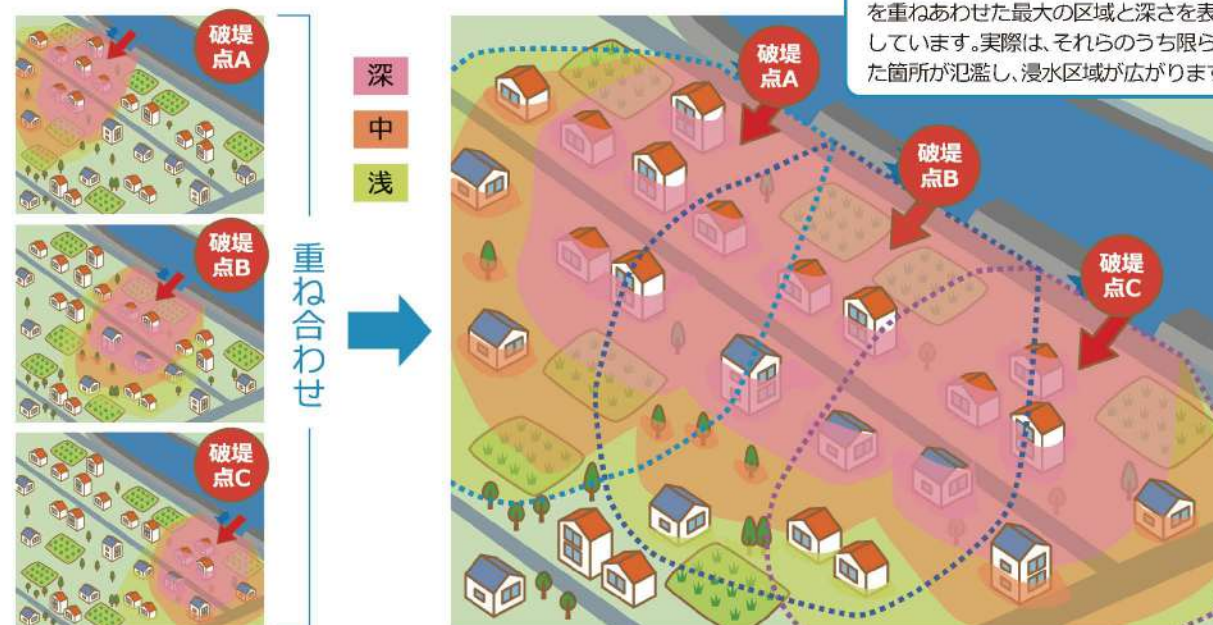
大雨などにより川の水が堤防いっぱいまで増えると、土でできた堤防に水の圧力がかかります。

水が増え、水の力に堤防が耐えられなくなると、堤防の一部が崩れ始めます。

堤防の崩れた場所を通して勢いよく水が流れ出し、家におそいかかります。

洪水浸水想定区域の考え方

全ての破堤点(堤防が決壊すると想定した箇所)について、どう氾濫し、浸水するか、それぞれの箇所で氾濫解析シミュレーションを行い予想しています。



マップに示した想定は、全ての予想結果を重ねあわせた最大の区域と深さを表示しています。実際は、それらのうち限られた箇所が氾濫し、浸水区域が広がります。

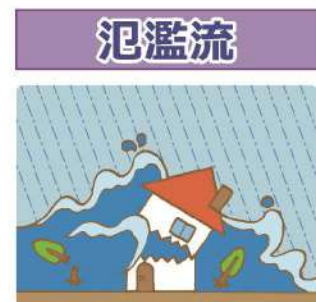


★県管理河川における上記の想定最大規模の浸水想定区域図は、長野県のホームページで確認することができます。

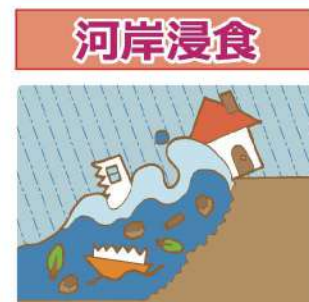
家屋倒壊等氾濫想定区域とは

家屋の倒壊・流失をもたらすような激しい流れが発生する恐れがある堤防沿いの地域を「家屋倒壊等氾濫想定区域」として設定してあります。この区域は、**早期の立退き避難が必要です!**

家屋倒壊等氾濫想定区域は
氾濫流と**河岸侵食**があります



氾濫した洪水の流速が早く、木造家屋が倒壊する恐れのある区域



洪水の際に河岸が削られて、家屋が倒壊する恐れのある区域

災害に対する注意点

大雨が予想される場合



- 台風の接近や梅雨前線の停滞による大雨が予想される場合、気象台からの気象情報や町からの警戒情報に注意する。

気象警報等が発令された場合



- 大雨による災害の恐れがある場合に大雨警報が発令されます。状況によっては、町から避難情報も発表されますので、土砂災害警戒区域や浸水想定区域内の住民は、早めの避難を検討する必要があります。
- 大雨警報が発令され、さらに土砂災害発生危険がある場合に土砂災害警戒情報が発表されます。町からは特定の区域に避難指示等が発令される場合がありますので、避難対象区域や土砂災害警戒区域の住民は、より安全な場所への避難が必要となります。

避難行動



- 河川の氾濫や浸水が想定される場合は、高台等の安全な場所に避難する。
- 避難場所へ移動できない場合は、近所の鉄筋コンクリート製の頑丈な建物に避難する。



- 避難の際は、非常持出品はリュックに入れ、ヘルメット等を着用し、動きやすい服装、長靴ではなく、履きなれた靴をはく。



- 浸水している場合は、棒などを使って地面を探りながら避難。
- 大雨で増水しているときは、河川や用水路を避け、安全な避難経路をとる。



- 50cm以上の水深(大人のひざ丈)で浸水が発生している場合は、無理に避難しない。



- 山等の斜面で、災害の前兆現象(斜面にひび割れが生じる。小石が落ちてくる。土のにおいがする。斜面から水が湧き出る。湧水が濁る。地鳴りが聞こえる。)がみられたら、速やかに安全な避難場所に避難する。
- 土砂災害警戒区域に居住しており、避難勧告等が発令された時点で、既に大雨で避難ができない場合は、屋内でも上階の谷側に退避する。

土砂災害

土砂災害

土砂災害は、がけ崩れ・地すべり・土石流といった自然現象で地震や雨により発生しやすくなります。

区域の指定

土砂災害は毎年のように全国各地で発生しており、私たちの暮らしに大きな影響を与えています。また、近年線状降水帯などの発生により大雨が降り続き、大規模な土砂災害が発生しています。そのような全ての危険箇所を対策工事により安全な状態にしていくには、膨大な時間と費用が必要であり、土砂災害防止工事などのハード対策と併せて、危険性のある区域を明らかにし、その中で警戒避難体制の整備や危険箇所への新規住宅などの立地抑制など、ソフト対策を充実させていくことが大切です。

県では土砂災害防止法に基づいて地形などの調査を実施し、松川町内で土砂災害の恐れがある区域を「土砂災害警戒区域：イエローゾーン」と「土砂災害特別警戒区域：レッドゾーン」に指定し、注意を呼びかけています。災害ハザードマップで自宅の土砂災害の危険度を把握しましょう。

土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

■ 急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）

- ・ 傾斜度が30度以上で、高さが5m以上の区域
- ・ 急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
- ・ 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍の区域（最長50m）

■ 地すべり

- ・ 地すべり区域（地すべりしている区域または地すべりする恐れがある区域）
- ・ 地すべり区域の下端から地盤ごと動き出す区域の長さに対応する距離（最長250m）の区域

■ 土石流

土石流の発生の恐れがある渓流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域



警戒避難体制の整備

町では土砂災害から生命や身体を守るため、災害情報の伝達や避難が早くできるように警戒避難体制の整備を図ります。

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

土砂災害警戒区域のうち、建築物が損壊し住民に著しい危害が生じる恐れがある区域

■ 特定の開発行為に対する許可制

住宅宅地分譲や災害時要援護者関連施設の建築のための開発行為は、基準に従ったものに限って許可

【都道府県】

■ 建築物の構造規制

居室を有する建築物は、土砂災害の衝撃に対して建築物の構造が安全であるかどうか、建築確認がされます。

【建築主事を置く地方公共団体等】

■ 建築物の移転勧告

土砂災害により建築物が損壊し、住民の生命や身体に著しい危害が生じる恐れのある建築物の所有者に対し、移転などの勧告が図られます。

【都道府県】

少しでも異常を感じたら、すぐに避難しましょう。

土砂災害から身を守るために

がけ崩れや土石流などの土砂災害は、すさまじい破壊力をもつ土砂が一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまう恐ろしい災害です。土砂災害から身を守るためには、私たち一人一人が土砂災害に対して日頃から備えておくことが重要です。土砂災害から身を守るために最低知っておきたい3つのポイントです。

① 住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」かどうか確認

普段から自分の家が土砂災害危険箇所にあるかどうか、防災ハザードマップなどで確認しましょう。

② 雨が降り出したら土砂災害警戒警報などの気象情報に注意

雨や台風は地震災害等とは違い、事前にある程度予測することができます。空の様子や気象情報等に注意し、土砂災害に備えましょう。

③ 早めの避難

土砂災害危険箇所やその付近にお住まいの方は、気象情報等に注意し、早めに近くの避難所など、安全な場所に避難することが重要です。

土砂災害の種類

【急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）】

がけ崩れは、急な斜面が大雨や長雨によって緩み、突然崩れ落ちる現象で、避難が遅れがちになります。

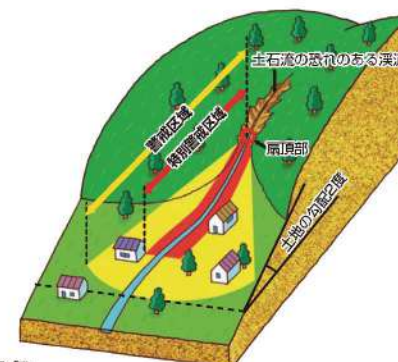


■ 前兆現象

- がけから水が湧きだす。 ○ がけに亀裂が入る。
- 小石がパラパラと落ちてくる。

【土石流】

土石流は、谷や渓流から、土砂や石、木を含んだ濁流が一気に下流へ押し流される現象です。速度が速く大きな破壊力を持っています。

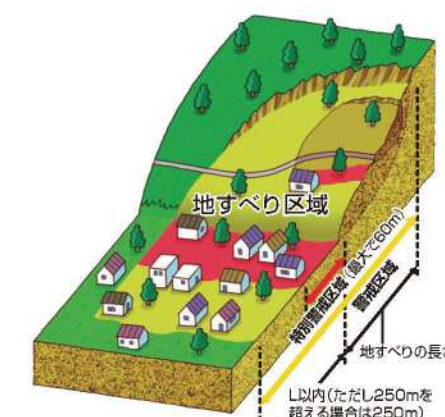


■ 前兆現象

- 山鳴りがする。 ○ 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。
- 川の流れが濁ったり、流木が混ざり始める。

【地すべり】

地すべりは、広い範囲の地盤がゆっくりと動き出す現象です。速度は緩やかですが、発生すると大きな被害をもたらします。



■ 前兆現象

- 地面がひび割れたり陥没する。 ○ 沢や井戸の水が濁る。
- 斜面から水がふき出す。

早めの避難と日頃の備え

日頃から地域を知り、早めの避難を心がけることが、命を守ることに繋がります。安全な指定避難所・指定緊急避難場所の確認や安全な避難路の確保など、いざという時に備えましょう。

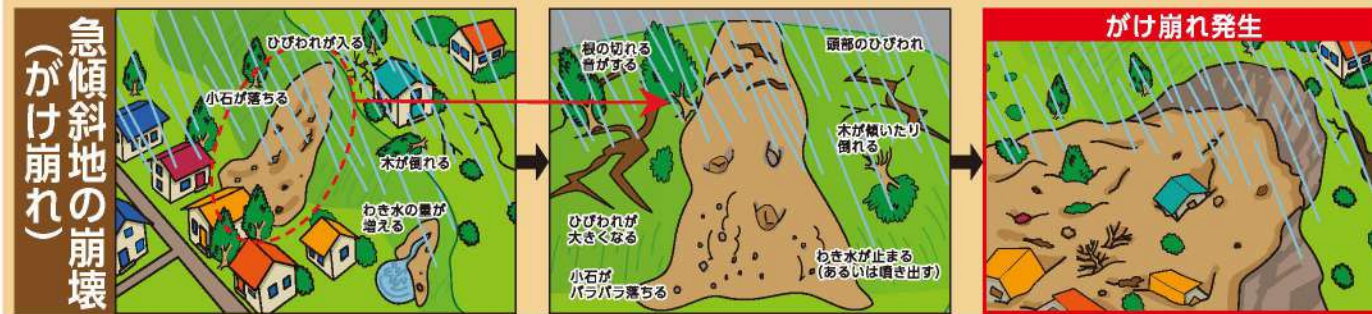
土砂災害

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、直ちに周りの人と安全な場所へ避難してください。

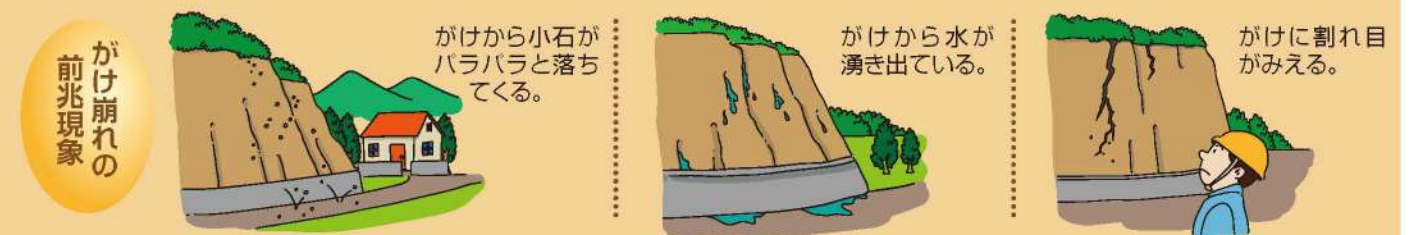
日ごろから危険箇所、避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害の種類

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土砂災害の前ぶれ(前兆現象)として、どんなことが起こるの？



山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速 20～40km という速度で一瞬のうちに人家や畑などに被害が発生します。



斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に地面が大きなかたまりのまま動くため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

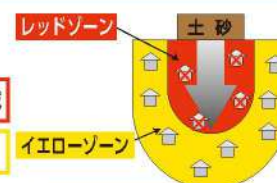


土砂災害の危険箇所について

土砂災害防止法に基づき長野県が計画的に基礎調査を実施し、「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」の指定及び見直しを行っています。

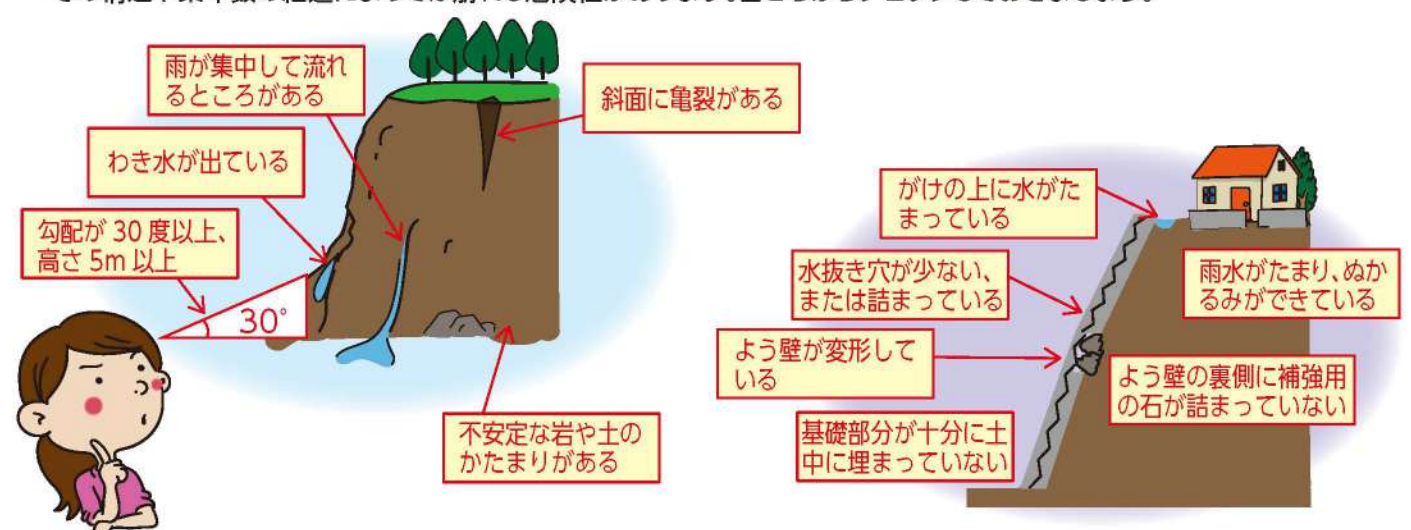
土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン) 建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域 (イエローゾーン) 土砂災害のおそれがある区域



土砂災害の予防策

勾配が30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い場所です。また、がけや盛土の崩落を防ぐためのよう壁も、その構造や築年数の経過によっては崩れる危険性があります。日ごろからチェックしておきましょう。



地震について

地震マップとは、町周辺で大地震が発生した場合の各地域の揺れの強さや被害の状況を推定し、地図上に示したものです。このハザードマップには南海トラフ巨大地震と伊那谷断層帯による地震を想定した「揺れやすさマップ」が掲載されています。自宅や学校・職場での地震対策や地震発生時の行動などを、ご家族や地域の皆さんと話し合う時の参考としてください。また、地震の際には斜面災害が発生する恐れがあるので、土砂災害にも注意してください。

地震発生のしくみ

日本列島の周辺には4つのプレート（板状の堅い地殻）があり、年に数センチの速度で一定の方向に動いています。プレートの境目でのプレートどうしの運動が地震を引き起こす原因です。日本では主に2種類の地震が起こっています。

●活断層型地震

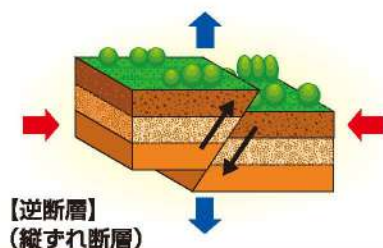
陸地の地殻もプレートの運動によりいたるところに「ずれ」が生じています。これらの「ずれ」はいつかずれ動く可能性があり、「活断層」と言われています。この活断層のずれの動きが地震となります。

●海溝型地震

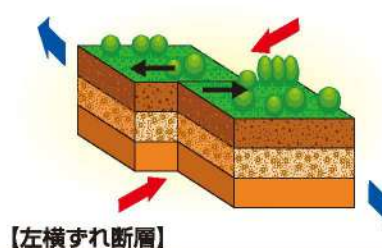
海洋側のプレートの潜り込みにより大陸側のプレートが引きずり込まれ、境目にひずみがたまり、限界に達すると元に戻ろうとしてはね上がり、地震が発生します。



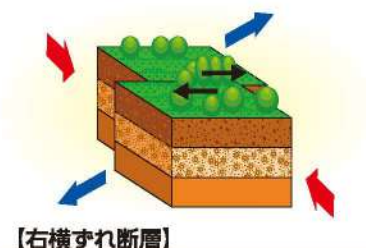
活断層型地震：出典J-SHIS_日本の地震活動より



【逆断層】
（縦ずれ断層）



【左横ずれ断層】



【右横ずれ断層】

●マグニチュードとは？

マグニチュード（以下Mと表記）は、地震の規模を表す単位です。関東大震災はM7.9、阪神・淡路大震災はM7.3、東日本大震災はM9.0でした。Mが0.2大きくなると地震のエネルギー規模は約2倍に、またMが1大きくなると約32倍になります。

●震度とは？

震度は地震の際の各地点の揺れの大きさを表します。ある地点が実際にどう揺れるかは、地震のエネルギー規模だけでなく、震源からその地点までの距離、地盤条件等に左右されます。

●マグニチュードと震度の関係

マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと机の上の明るさとの関係に例えられます。同じ電球からの光でも、机がどの位置にあるかで、机の上の明るさは異なります。このように、マグニチュードが同じ地震であっても、震源が遠ければ震度は小さく、震源が近ければ震度は大きくなります。また、地盤の質の違いによっても、震度の大きさは左右されます。

マグニチュード
（電球の明るさ）



震度
（机の光の強さ）



地震の揺れと想定される被害

4



【震度4】

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

5弱



【震度5弱】

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

5強



【震度5強】

- 物につかまらないうちで歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

6弱



耐震性が高い 耐震性が低い

【震度6弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強



耐震性が高い 耐震性が低い

【震度6強】

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

7



耐震性が高い 耐震性が低い

【震度7】

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

（出典：国土交通省 気象庁ホームページ）

エリアメール・緊急速報メール

エリアメール・緊急速報メールとは、NTTドコモ、au、ソフトバンク、楽天モバイルなど携帯電話事業者が提供するサービスで、災害などの緊急時に「災害・避難情報」をエリア内にある対応携帯電話へ一斉に情報発信するものです。「災害・避難情報」を受信した場合、専用着信音、バイブレーション、画面表示でお知らせします。

緊急地震速報

気象庁が発表する「一般向け緊急地震速報」を携帯電話で受信できるサービス。気象庁が警報対象とした地域※の市町村に対して配信します。

※最大震度5弱以上と推定した地震の際に、強い揺れ（震度4以上）の地域

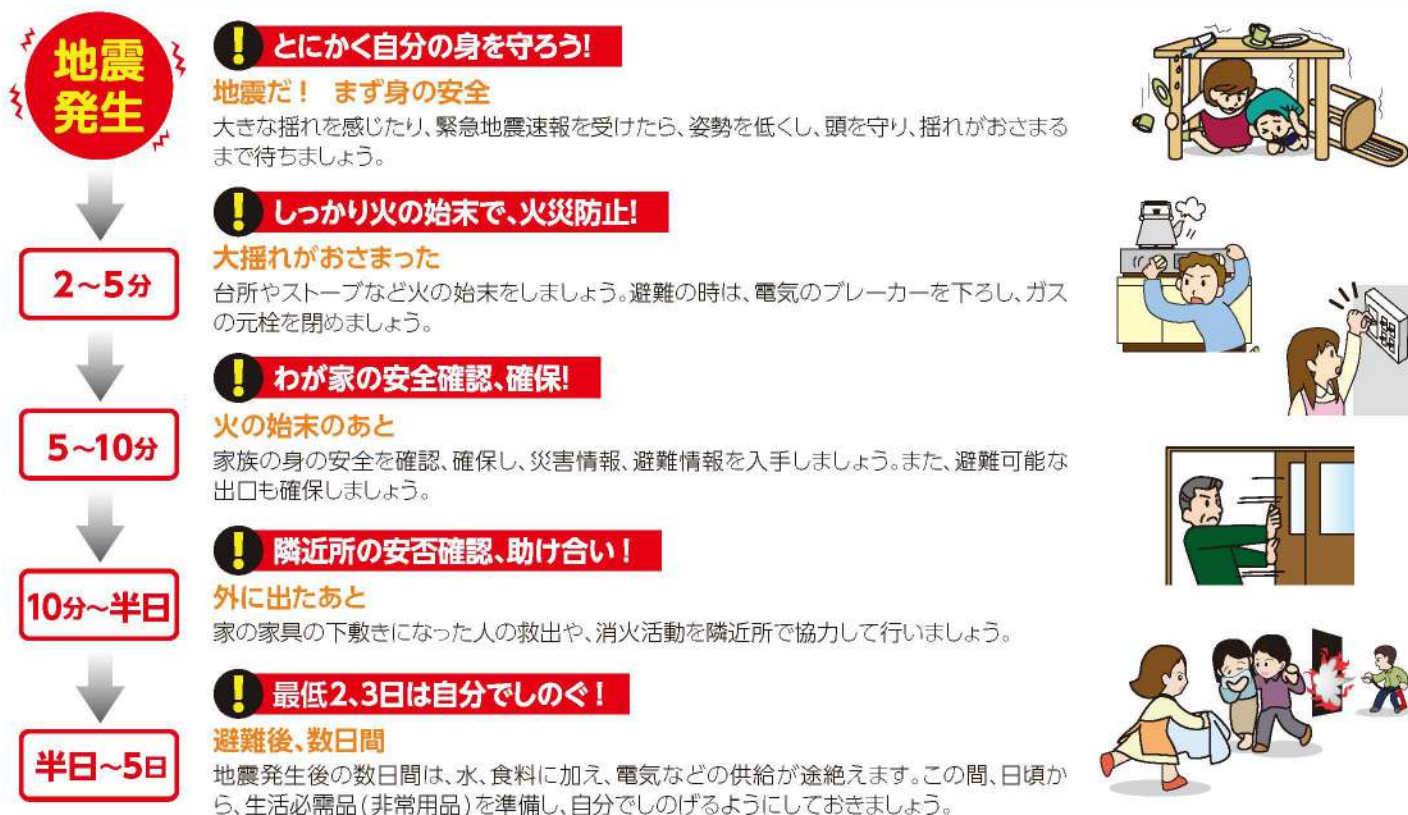
【ご利用にあたって】

余震が多く発生している時など緊急地震速報を適切に発表できないことがありますが、速報が発表されるときにはどこかで地震が発生していますので、身を守る行動をとって強い揺れに備えてください。また、速報が発表されていなくても、地震の揺れを感じた時は身を守る行動をとって下さい。



地震対策について

地震発生時の時間経過別行動マニュアル



屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などの安全な場所へ避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。



電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外に出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



わが家の防災対策

家の中の安全対策 ●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



寝室、子どもやお年寄りのいる部屋にはできるだけ家具を置かない

就寝中に地震に襲われると家具が倒れるおそれがあり危険。やむをえず置く場合は、なるべく背の低い家具にするとともに、寝ている場所に倒れないよう、また出入口をふさがないように、向きや配置を工夫する。



家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



安全に避難するため 出入口や通路にもものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいたるものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



電気火災発生の防止

地震による火災の原因の多くは電気が関連。電気ストーブや電気コンロの転倒や、停電復旧時の通電火災(破損した電気コードのショートによる出火など)がある。電気火災を防ぐためには、感震ブレーカーの設置が有効。



手の届くところに防災品を備える

夜間就寝時、停電になると周囲の確認ができず危険。地震の場合はガラスが散乱したり、部屋に閉じ込められることもある。普段寝る場所から手の届くところに懐中電灯やスリッパ、ホイッスルを。



家具の転倒、落下を防ぐポイント ●事前に準備出来ているか、チェックしましょう。

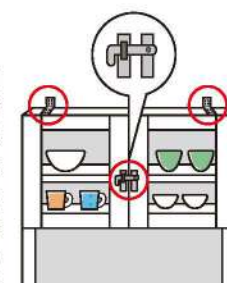
ダンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



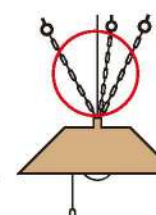
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



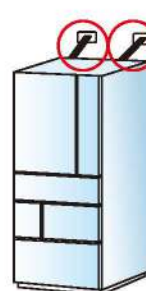
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



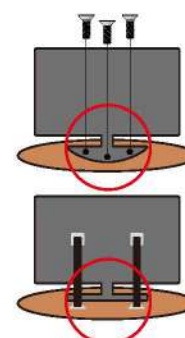
冷蔵庫

所定の取り付け場所(運搬用取っ手など)を転倒防止ベルトで壁や柱に固定する。



テレビ

テレビ台とテレビを直接固定するのが有効。脚などに専用の取り付け箇所がある場合はボルト等で取り付け、そうでないものは転倒防止ベルトなどで固定する。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



災害に関する情報の伝達経路



避難 ● 指定緊急避難所または指定避難所

防災気象情報の流れ 避難情報の流れ

防災無線の確認方法

■防災無線放送（個別受信機）で確認

戸別受信機で、防災無線の放送内容が再放送されます。

一番右の「再生」ボタンを押すことで確認することができます。

■防災無線（登録制メール）で確認

メールアドレスを登録することにより、町の防災情報をメールで受信できます。※登録を行う前に「raidon2.ktaiwork.jp」からのメールを受け取れるように設定してください。

【登録方法】

QRコードをスキャンすると新規メール作成画面が起動しますのでそのまま空メールを送信します。

■チャンネルYOUデータ放送で確認

12chのチャンネルYOUデータ放送（dボタン）で、町が発令した避難指示等の避難情報を文字情報として確認することができます。

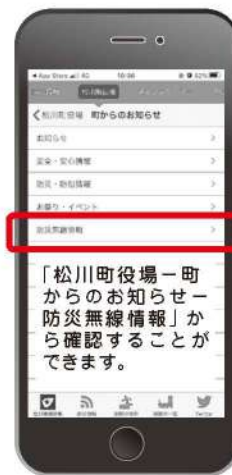
「町からのお知らせ」から確認することができます。



■アプリ（JC-Smart）で確認

アプリで、町からの「緊急情報」、「町からのお知らせ」、「休日当番医」、「CATVからのお知らせ」についてご覧いただけます。

下のQRコードをスキャンし、アプリを登録してください。



気象情報・防災情報

気象情報

気象庁

▶ <https://www.jma.go.jp/>

長野地方気象台

▶ <https://www.jma-net.go.jp/nagano/>

長野県 河川砂防情報ステーション

▶ <https://www.sabo-nagano.jp/>

河川水位情報

松川町気象観測サイト

▶ <http://matsukawa-api1.weather-server.com/>

土砂災害警報情報

国土交通省 川の防災情報

▶ <https://www.river.go.jp/>

気象庁 土砂災害警戒情報

▶ <https://www.jma.go.jp/jp/dosha/>

信州防災アプリ

災害にそなえ、防災を学ぶ。ふだんも、いざという時も役立つ。スマートフォンにダウンロードして、いざというときに備えて下さい。



信州くらしのマップ



災害の「備え」チェックリスト

非常持出品

避難の際に持ち出すもの！



- ☐ 水
- ☐ 食品（ご飯、レトルト食品など3日分）
- ☐ 防災用ヘルメット・防災ずきん
- ☐ 衣類・下着
- ☐ レインウェア
- ☐ 紐なしのズック靴
- ☐ 懐中電灯
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 予備電池・携帯充電器
- ☐ マッチ・ろうそく
- ☐ 救急用品
（ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など）
- ☐ 使い捨てカイロ
- ☐ ブランケット

- ☐ 軍手
- ☐ 洗面用具
- ☐ 歯ブラシ・歯磨き粉
- ☐ タオル
- ☐ ペン・ノート

感染症対策にも有効です!!

- ☐ マスク
- ☐ 手指消毒用アルコール
- ☐ 石けん・ハンドソープ
- ☐ ウェットティッシュ
- ☐ 体温計

一緒に持ち出そう!!

- ☐ 貴重品

子供がいる家庭の備え

- ☐ ミルク（キューブタイプ）
- ☐ 使い捨て哺乳瓶
- ☐ 離乳食
- ☐ 携帯カトラリー

- ☐ 子供用紙オムツ
- ☐ お尻ふき
- ☐ 携帯用お尻洗浄機
- ☐ ネックライト

- ☐ 抱っこひも
- ☐ 子供の靴

女性の備え

- ☐ 生理用品
- ☐ おりものシート

- ☐ サニタリーショーツ
- ☐ 中身の见えないゴミ袋

- ☐ 防犯ブザー／ホイッスル

高齢者がいる家庭の備え

- ☐ 大人用紙パンツ
- ☐ 杖
- ☐ 補聴器

- ☐ 介護食
- ☐ 入れ歯・洗浄剤
- ☐ 吸水パッド

- ☐ デリケートゾーンの洗浄剤
- ☐ 持病の薬
- ☐ お薬手帳のコピー

災害備蓄品

お家に備えておくもの！

- ☐ 食料や水（最低3日分!できれば1週間分）× 家族分
保存期間の長いものを多めに買って置き、消費したら補充するという習慣にしていれば、常に食料の備蓄が可能!
- ☐ 生活用品
例えば、ティッシュ、トイレトペーパー、ラップ、ゴミ袋、ポリタンク、携帯用トイレ...など

！避難情報のポイント！

町長は、災害が発生するおそれがある状況等において、「避難が必要となる地域」の「避難が必要な居住者等」に対して、避難情報を発令します。

町では、避難情報が正しく理解されるよう、また確実に伝わるよう努めて参ります。

※①避難情報で警戒レベルを伝達します。

「警戒レベル3」は、危険な場所にいる高齢者等、避難に時間のかかる方やその支援者の方へ避難開始を伝達します。

「警戒レベル4」は、危険な場所にいる方全員へ避難開始を伝達します。

※②避難情報を発令する災害発生リスクの原因を伝達します。

「河川の増水」や「土砂災害発生のおそれ」などが想定されます。

※③災害発生リスクの高まった地区を伝達します。

行政区名や集落名などにより可能な限り区域を絞り込んで伝達します。

※④「危険な場所」とは、土砂災害特別警戒区域、同警戒区域、浸水想定区域等、ハザードマップで着色されているエリアや、災害発生の前兆現象が確認される場所です。

絞り込んだ区域の中で、さらに避難の必要がある方を対象とします。

これは、不必要な避難により避難先での混雑や避難自体が身体的負担になるおそれがあるためです。また、安全なところまで避難対象区域としていると受けとめられ、避難情報に対する信頼性を損なうおそれもあるためです。

※⑤「危険な場所」以外の場所や避難情報発令前においても、自らの確認や判断で避難や屋内安全確保を検討しましょう。

避難情報は、気象情報や現場調査の情報等を収集したうえで発令を判断しますが、個別の事象については、その場にいる方の判断に勝るものではありません。町からの避難情報を待つことなく、自らの確認や判断で行動しましょう。



大雨や台風時に備えてハザードマップ及び下記の「避難行動判定フロー」を確認しましょう！

平時から確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクと、とるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

～あなたがとるべき避難行動は？～

災害ハザードマップ、洪水ハザードマップ※で自宅の位置を確認しましょう。

※ハザードマップは、土砂災害や浸水が発生する恐れの高い場所を着色した地図ですが、着色されていない場所でも災害が発生する可能性があります。

自宅の位置に着色されていますか？（土砂災害の赤色は危険度大）

いいえ

着色がなくても、周辺より低い土地や崖のそばなどに自宅がある場合は、町からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として自宅からの立退き避難（水平避難）が必要です。

参考

自宅からの立退（水平）避難は、自治体が指定している避難所だけに限らず、安全な場所に住む家族や知人宅も考慮しておくことが重要です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

警戒レベル3「高齢者等避難」安全な場所で身を寄せられる家族、親戚、知人宅がありますか？

はい

普段から相談しておいた親戚等のお宅へ避難しましょう。

いいえ

自治体が指定、開設した避難所へ避難しましょう。

警戒レベル4「避難指示」安全な場所で身を寄せられる家族、親戚、知人宅がありますか？

はい

普段から相談しておいた親戚等のお宅へ避難しましょう。

いいえ

自治体が指定、開設した避難所へ避難しましょう。

※警戒レベル4までに水平避難できなかった方は、

警戒レベル5「緊急安全確保」

今いる建物内でより安全な高層階や土砂が流入してこない側の部屋へ避難（垂直避難）して下さい。

マイ・タイムラインを作成しましょう!

マイ・タイムラインとは、台風の接近によって河川の水位上昇が予想される時などに、自分自身とる防災行動を時系列的に整理した個人防災行動計画です。台風を想定したタイムラインでは、台風が直撃する「3～2日前」「1日前」「5～3時間前」など、時間ごとにどのような行動をとるか整理します。

Step 1 洪水ハザードマップと避難場所、避難の合図となる情報を確認

避難指示などの避難情報や土砂災害警戒情報など、どの情報が出たら避難を開始するか確認します。

Step 2 洪水発生前までにとるべき基本的行動を考える

今後の台風を調べ始める、川の水位を調べ始める、非常用持出しバッグをチェックする、避難しやすい服装に着替える、安全なところへ移動を始める、など基本的な行動とその順番を考えます。

Step 3 家族や家庭の特徴を加味する

車を持っている、祖父母と同居しているなど、自分の家庭にあてはまる状況を確認し、自分たちに必要な行動を考えます。

Step 4 時間ごとに整理してタイムラインの完成

基本的行動と家族のために必要な行動を上記の時間ごとに並べます。

※上記はマイ・タイムライン作成の一例です。

状 況	気象・避難情報	我が家の行動計画
雨風が強くなる前	早期注意情報	
雨風が強まってきたら	洪水注意報 大雨注意報等	
災害発生のおそれ	警戒レベル3 高齢者等避難	
災害発生確率大	警戒レベル4 避難指示	
災害発生	緊急安全確保	

マイ・タイムライン作成例	
避難所等： ○○小学校体育館	
住んでいる場所の浸水深 (m)： 3m	
台風直撃 3日前	警戒レベル1 台風が接近 テレビ、インターネットで台風の進路をチェックする
台風直撃 2日前	警戒レベル2 雨風が強くなる 付近の川の上流の雨量を調べる
台風直撃 1日前	川の水位が上昇 付近の川の水位を調べる
台風直撃 半日前	川の上流から水が集まる 避難するときに持っていくものを準備する
はん濫 5時間前	警戒レベル3 河川敷のグラウンドが水没 避難しやすい服装に着替える おじいちゃん、おばあちゃんが避難する
はん濫 3時間前	警戒レベル4 川の水があふれそうになる 全員安全な場所に避難する・避難完了
はん濫 発生	警戒レベル5 はん濫発生

わが家の備忘録

「我が家」の災害リスク		
風水害		
☐ 洪水(想定水深 m～ m)	☐ ため池氾濫(想定水深 m～ m)	☐ 土砂災害
☐ 20m以上		■ 特別警戒区域(急傾斜地)
☐ 10m～20m	☐ 5m以上	□ 警戒区域(急傾斜地)
☐ 5m～10m	☐ 2m～5m	□ 警戒区域(土石流)
☐ 3m～5m	☐ 1m～2m	□ 警戒区域(地すべり)
☐ 0.5m～3m	☐ 0.5m～1m	
☐ 0.5m未満	☐ 0.5m未満	
地震災害		
耐震強度	急傾斜地崩落危険区域	
昭和・平成・令和 年建築	■ 特別警戒区域(急傾斜地)	
(西暦 年)	☐ 警戒区域(急・土・地)	

「我が家」の防災家族会議決定事項			
最寄り避難場所	最寄り避難所	家族の集合場所	町外の避難先
避難するタイミング			
「非常持出品」		「防災備蓄品」	
「避難所避難」の条件		「自宅避難」の条件	

災害時の「声の伝言板」
災害用伝言ダイヤル

「171」

災害用伝言板

「Web171」

伝言を
録音する場合

伝言を
再生する場合

1
をダイヤル

2
をダイヤル

連絡をとりたい
被災地の方の電話番号を
市外局番からダイヤル

0265-36-XXXX
090-XXXX-XXXX
080-XXXX-XXXX

伝言を
お話しください

伝言を
お聞きください

<https://www.web171.jp/>へアクセス

連絡をとりたい方の電話番号を入力

※伝言の登録・確認ができます

避難場所等一覧

指定一般避難所

No	施設・場所名	住 所	災 害 種 別			地図ページ
			洪水	土砂災害	地震	
1	上片桐改善センター	上片桐2250	○	○	○	3図E-7・4図D-2
2	子育て支援センターおひさま	上片桐1077	○	○	○	3図D-5
③	上片桐保育園	上片桐2197	○	○	○	3図E-7・4図D-2
4	上大島公民館	大島2194-2	○	○	○	4図B-6
5	旧松川青年の家体育館	大島2750-284	○	○	○	1図E-7・2図C-2
⑥	大島保育園	大島1722	○	○	○	4図C-5
7	名子公民館	元大島3587	○	○	○	4図F-8・5図F-3
8	松川町中央公民館	元大島3720	○	○	○	4図F-8・5図F-3・6図A-7・7図A-1
9	町民体育館	元大島3592-2	○	○	○	4図F-8・5図F-3・6図A-7・7図A-1
10	名子原体育館	元大島2930-1	○	○	○	6図B-5
⑪	名子中央保育園	元大島3771	○	○	○	5図F-3・6図A-8・7図A-2
12	上新井コミュニティセンター	元大島1654	○	○	○	6図C-7・7図C-1
13	松川町商工会館	元大島1521-4	○	○	○	6図C-7・7図C-2
⑭	双葉保育園	元大島1664-5	○	○	○	6図C-7・7図C-1
15	古町コミュニティセンター	元大島749-5	○	○	○	7図B-5
16	福与ふれあい館	生田909-1	×	○	○	7図D-5
⑰	福与保育園	生田589-3	○	○	○	6図E-8・7図E-2・8図A-7・9図B-2
18	部奈文化伝承センター	生田2939-1	○	○	○	8図D-5
19	生東会館	生田5940-6	○	○	○	10図C-7・11図C-4
20	旧東小学校体育館	生田4735	○	○	○	10図F-7・11図F-4・12図A-5

③⑥⑪⑭⑰（保育園）は、大規模災害発生時に開設する避難所です。
⑰は、洪水の可能性で16が開設できない場合、開設することがあります。

指定福祉避難所

No	施設・場所名	住 所	区 分		地図ページ
			通所	入所	
1	デイサービスセンター ひまわり荘	元大島2930-1 2	○		6図B-5
2	コスモス松川 デイサービスセンター	元大島1655	○		6図C-7・7図C-1
3	デイサービスセンター 福本	上片桐368	○		3図D-4
4	デイサービスセンター さくら	上片桐2284	○		3図E-8・4図E-3
5	ケアコミュニティ こころ	上片桐3373-1	○		4図F-3・6図A-1
6	特別養護老人ホーム松川荘	元大島2965-1		○	6図B-5
7	コアみらい	上片桐2621-6		○	3図D-6・4図C-1
8	介護センターななすぎ	元大島2002-2	○	○	6図D-6・7図D-1
9	信愛の里 松川	生田5015			10図F-5・11図F-1・12図A-2
10	ほっとハート信愛	上片桐4595-40			6図C-4
11	アンサンブル会	元大島1339-1			6図C-8・7図C-2
12	名子原体育館	元大島2930-1			6図B-5

※12は、他の福祉避難所の受け入れ状況に応じて開設します。

指定緊急避難場所

No	施設・場所名	住所	災 害 種 別			地図ページ
			洪水	土砂災害	地震	
1	町営グラウンド	上片桐2260	○	○	○	3図E-7・4図D-2
2	信州航空電子(株)グラウンド	上片桐800	○	○	○	3図F-5
3	上片桐保育園園庭	上片桐2197	○	○	○	3図E-7・4図D-2
4	北部果実選果場	大島2072-1	○	○	○	4図C-6
5	大島保育園園庭	大島1722	○	○	○	4図C-5
6	旧松川青年の家グラウンド	大島2750-284	○	○	○	1図E-7・2図C-2
7	松川中学校校庭	元大島3293	○	○	○	4図F-8・5図F-2・6図A-6・7図A-1
8	松川中央小学校校庭	元大島3716-1	○	○	○	4図F-8・5図F-3・6図A-7・7図A-1
9	名子原体育館前庭	元大島2930-1	○	○	○	6図B-5
10	名子中央保育園園庭	元大島3771	○	○	○	5図F-3・6図A-8・7図A-2
11	富士森公園	元大島3034-2	○	○	○	6図C-6
12	双葉保育園園庭	元大島1664-5	○	○	○	6図C-7・7図C-1
13	松川公園	元大島1397-3	○	○	○	6図B-7・7図B-2
14	七椏公園	元大島1994-2	○	○	○	6図D-6・7図D-1
15	台城公園駐車場	元大島263	○	○	○	7図B-6
16	福与保育園園庭	生田589-3	○	○	○	6図E-8・7図E-2・8図A-7・9図B-2
17	部奈公会堂前庭	生田2935-1	○	○	○	8図D-5
18	生田グラウンド	生田5940	○	○	○	10図C-7・11図C-4
19	旧東小学校校庭	生田4734-1	○	○	○	10図F-7・11図F-4・12図A-5

医療施設

No	施設名	住所	電話番号	地図ページ
1	下伊那赤十字病院	元大島3159-1	36-2255	6図B-6
2	上片桐診療所	上片桐2849-3	37-2010	3図F-7・4図F-2
3	中塚内科循環器科医院	元大島3775-3	34-1188	5図F-4・6図A-8・7図A-2
4	宮澤歯科医院	元大島1547	36-2028	6図C-7・7図C-1
5	宮下歯科医院	元大島3265-2	36-6161	5図F-2・6図A-6
6	北原歯科医院	元大島1492	36-2124	6図C-7・7図C-2
7	下平歯科医院	上片桐3265-1	37-2006	3図F-8・4図E-3
8	米山歯科医院	元大島3807-1	36-4188	6図B-7・7図B-1

防災関係機関

No	施設名	住所	電話番号	地図ページ
1	松川町役場	元大島3823	36-3111	4図F-8・5図F-2・7図A-1
2	松川町役場上片桐支所	上片桐2250	37-2001	3図E-7・4図D-2
3	松川町役場生田支所	生田5958	36-2301	10図C-7・11図C-4
4	高森消防署（2026年4月移転予定）	高森町山吹5920-1	35-0119	5図E-8
5	松川町交番	元大島1801	36-2051	6図D-6

